介護福祉科

シ ラ バ ス

実務経験のある教員等による授業科目一覧（介護福祉科）

NO	科目名	単位時間	実務経験内容
1	人間の尊厳と自立	30	本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による授業である。
2	人間関係とコミュニケーション	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
3	社会の理解B	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
4	問題解決論	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
5	介護の基本B	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
6	介護の基本C	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
7	介護の基本D	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
8	介護の基本E	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
9	介護の基本F	30	本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による授業である。
10	コミュニケーション技術A	30	本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による授業である。
11	コミュニケーション技術B	30	本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による授業である。
12	生活支援技術A	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
13	生活支援技術C	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
14	生活支援技術D	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
15	生活支援技術E	30	本科目は、介護福祉士・社会福祉士・作業療法士として実務経験のある教員による授業である。
16	生活支援技術F	30	本科目は、介護福祉士・管理栄養士として実務経験のある教員による授業である。
17	生活支援技術H	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
18	生活支援技術I	30	本科目は、作業療法士・言語聴覚士・理学療法士として実務経験のある教員による授業である。
19	生活支援技術J	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
20	介護過程Ⅰ	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
21	介護過程Ⅱ	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
22	介護過程Ⅲ	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
23	介護過程Ⅳ	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
24	介護過程Ⅴ	30	本科目は、臨床心理士として実務経験のある教員による授業である。
25	介護総合演習A	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
26	介護総合演習B	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
27	介護総合演習C	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
28	介護総合演習D	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
29	介護実習Ⅰ	135	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である。
30	介護実習Ⅱ	315	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である。
31	発達と老化の理解Ⅱ	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
32	認知症の理解Ⅰ	30	本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。
33	認知症の理解Ⅱ	30	本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。
34	障害の理解Ⅰ	30	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
35	障害の理解Ⅱ	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
36	こころとからだのしくみC	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
37	こころとからだのしくみD	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
38	医療的ケアⅠ	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
39	医療的ケアⅡ	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
40	医療的ケアⅢ	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
41	医療的ケアⅣ	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
42	介護福祉学特講Ⅰ	30	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である。

NO	科目名	単位時間	実務経験内容
43	介護福祉学特講Ⅱ	60	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である。
44	医療総合演習	30	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。
	合　計	1740	

人間の尊厳と自立

講師:勝 智樹

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を習得する。
尊厳の保持、自立(自律)の支援、ノーマライゼーション、権利擁護等の介護の基本的な理念を理解する。
これらの理念を踏まえ、介護場面における倫理的課題に対応するために介護福祉士として必要なことは何か。倫理・知識・技術の側面から考え、自分自身の目指す介護福祉士のイメージを明確にする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	開講オリエンテーション～福祉とは	講義・GW	グループでの役割分担の確認
2	社会福祉とは～憲法第25条・ノーマライゼーション	講義・GW	互いに意見を出し合う
3	しあわせについて考える～憲法第13条	講義・GW	互いに意見を出し合う
4	介護福祉士とは	講義・GW	互いに意見を出し合う
5	援助者に必要な要素とは	講義・GW	互いに意見を出し合う
6	価値について考える	講義・GW	互いに意見を出し合う
7	事例検討	GW	ディスカッションに積極的に参加する
8	事例検討	GW	ディスカッションに積極的に参加する
9	尊厳と自立について考える①	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する。
10	尊厳と自立について考える②	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する。
11	尊厳と自立について考える③	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する。
12	権利擁護とアドボカシー	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する。
13	私の目指す介護福祉士とは①	GW	課題レポートのポスター発表
14	私の目指す介護福祉士とは②	GW	課題レポートのポスター発表
15	私の目指す介護福祉士とは③	GW	課題レポートのポスター発表

■受講上の注意

グループワークでは、意見交換を中心に行います。積極的に考えを述べ、周りの意見を聴くこと。

■成績評価の方法

① 課題レポートおよびポスター発表　90%　② レスポンスシート　10%

■テキスト参考書など

人間の理解 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

人間関係とコミュニケーション

講師：ウアツコ ポラス ルイス

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基本的なコミュニケーション能力を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ	講義・演習	人間らしさのはじまりについて、予習を行う（p80―83）
2	人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について学ぶ	講義・GW	自分と他者の理解ついて、予習を行う
3	人の発達にともなう、人間関係の広がりを学ぶ	講義・演習	発達心理学からみた人間関係について、予習を行う
4	人の発達にともなう、人間関係の広がりを学ぶ	講義・演習	社会心理学からみた人間関係について、予習を行う。
5	人はどのように他者や集団とかかわりながら成長するのかを学ぶ	講義・DVD	集団のなかの人間関係（グループにおける力動性）について、予習を行う
6	人間関係とストレスについて理解できる	講義・DVD	ストレスについて、予習を行う
7	人間と人間関係全体について理解できる	筆記試験	人間と人間関係について、予習を行うこと、小テスト実施
8	コミュニケーションの特性や構造又は、言語・非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義・GW	コミュニケーションの概念・構造・手段について、予習を行う
9	円滑なコミュニケーションをはかるうえでの配慮について学ぶ	講義・DVD	対人援助における基本的態度について、予習を行う
10	援助者としてのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	講義・演習	援助的人間関係の形成とバイステックの七つの原則について、予習を行う
11	介護現場でのコミュニケーションについて理解できる	講義・GW	ディスカッション資料について、予習を行う
12	介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解する	講義・GW	介護現場で求められるチームマネジメントついて、予習を行う
13	組織の目標達成のためのチームマネジメントについて学ぶ	講義・GW	介護サービスを支える組織の機能と役割について、予習を行う
14	コミュニケーション・チームマネジメントについて理解できる	筆記試験	コミュニケーション・チームマネジメントについて、予習を行うこと、小テスト実施
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

忘れ物の無いようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② レポート・小テスト　20%

■テキスト参考書など

人間の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

社会の理解A

講師:三原 恵

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間として捉える視点を養い、人間の生活と社会のかかわりや、自助～公助に至る過程について理解する。またわが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会の理解を学ぶ意義を理解する 社会の生活を多面的に学ぶ	講義	生活の幅を広くとらえ、常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。新出の用語等やわからないことは質問をすること。
2	生活の基本機能・ライフサイクルの変化について学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
3	家族の機能と役割を理解する	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
4	社会や地域の機能や役割を理解し、生活支援への関係を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
5	地域福祉の成り立ちを学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
6	地域包括ケアについて考える	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
7	社会保障制度の概要を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
8	社会保障制度の歴史を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
9	社会保障制度のしくみを学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
10	年金保険を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。小テスト
11	医療保険を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。小テスト
12	労働保険を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。
13	社会扶助を学ぶ	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。小テスト
14	現代の社会保障制度と課題を考える	講義	事前の指示を受け、事前学習を行うこと。また新出の語句や用語について、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。小テスト
15	終講試験およびまとめ	講義筆記試験	講義全体を通してのまとめ。理解が不十分な点は、補足をするため、復習の中で自己覚知を行うこと

■受講上の注意

■成績評価の方法

①終講試験　70%　②小テスト　30%

■テキスト参考書など

社会の理解「介護福祉士養成講座委員会」中央法規
諸制度・施策に関しては必要に応じて、プリントを配布

■備考

社会の理解B

講師:迫 節子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障碍者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的な学習をする。
介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高齢者保健福祉における移り変わりと今日的課題について学ぶ。	講義	事前にP122～P138までを読んでおく
2	高齢者保健福祉に関連する法体系の概要と各法律の役割について学ぶ。	講義	事前にP140～P147までを読んでおく
3	介護保険制度創設の背景と目的、しくみを理解する。	講義	事前にP148～P163までを読んでおく
4	介護保険サービスのしくみについて学ぶ。	講義	事前にP163～P175までを読んでおく
5	介護保険制度における地域支援事業、地域包括ケアシステムについて理解する。	講義	事前にP176～P186までを読んでおく
6	介護保険制度にかかわる組織と専門職の役割を理解できる。	講義・GW	事前にP186～P196までを読んでおく
7	介護保険制度の動向と地域包括ケアシステムを理解できる。	講義・演習	事前にP196～P204までを読んでおく
8	障害者福祉の現状と歴史，動向を理解できる。	講義	事前にP206～P221までを読んでおく
9	障害者総合支援法のしくみを理解できる。	講義・GW	事前にP222～P230までを読んでおく
10	障害者総合支援法にかかわる組織とその役割を理解できる。	講義・GW	事前にP231～P244までを読んでおく
11	介護の実践に必要な観点から障害者の自立に向けた諸制度を説明できる。	講義・演習	事前にP245～P258までを読んでおく
12	人々の権利を擁護する諸施策を理解できる。	講義・GW	事前にP260～P284までを読んでおく
13	保健医療にかかわる諸制度を理解できる。	講義・GW	事前にP285～P307までを読んでおく
14	生活を支援する諸制度を理解できる。	講義・GW	事前にP308～P320までを読んでおく
15	まとめ・終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。 レポートの提出期限を守ること。 グループワークや講義に主体的に臨むこと。
配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

①レポート・提出物　20%　②試験　60%　③小テスト　20%

■テキスト参考書など

社会の理解 「介護福祉士養成講座編集委員会」　中央法規　　見て覚える介護福祉士ナビ2019　中央法規　適宜資料を配布

■備考

心理学

講師：榊原 良太

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

・心理学の概論的内容を学ぶことにより、人間の心と行動を科学的に検討する視点を養う。
・心理学についての基本的知識を習得し、他者の行動や社会について多面的に理解する力を　獲得する
・心理学を活かして、良好な人間関係や社会的環境の構築を図ることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	心理学とはどのような学問か、その前提を理解する	講義	人の心とは何かについて、自身の意見を考えておく
2	パーソナリティという概念とその測定法を理解する	講義	自分自身の性格について考えてみたり、他の人から意見を聞いたりしておく
3	人の感覚・知覚について、体験を通じて学ぶ	講義	身の回りにある「錯覚」を探しておく
4	注意や思考といった認知の特徴を理解する	講義	自分自身が物事をいかに考えているのか、振り返ってみる
5	対人関係や集団の中での人の心理を学ぶ	講義	集団行動がうまくいった経験、うまくいかなかった経験を思い出しておく
6	人がいかに発達していくのかについて理解する	講義	生まれてから現在までの自身の成長について考えておく
7	感情のメカニズムとその機能を理解する	講義	感情の良い面、悪い面を考えておく
8	ストレスについて学び、効果的な対処法を考える	講義	自分自身のストレス対処法について、発表できるようにしておく
9	心の病気について学び、治療と予防を理解する	講義	心の病気に関する社会的な問題を調べておく
10	労働における基礎的な心理学について学ぶ	講義	働く上で必要な心理学の知識は何かを考えておく
11	よりよく働くために必要な心理学の知識・技能を学ぶ	講義	充実した職業生活を送るために必要な心理学の知識・技術を考えておく
12	お金にかかわる人の心の特徴を理解する	講義	自分自身のお金にかかわる心理・行動を振り返ってみる
13	進化を通じた心の起源を理解する	講義	人間以外の生物の心について考えておく
14	多様な文化における人の心のあり方を考える	講義	日本以外の文化における心について考えておく
15	授業を通して得た知識を振り返り、統合的な理解を目指す	講義・筆記試験	これまでの授業の知識を復習しておく

■受講上の注意

・授業中にできる限り意見を発表すること　・常に自分自身に照らし合わせながら授業をきくこと
・授業の知識を将来どのように活かすことができるか、考えながら授業に臨むこと

■成績評価の方法

①　終講試験　80%　②　レスポンスシート　20%

■テキスト参考書など

毎回資料を配布する。

■備考

情報科学

講師:　小牧　祥太郎

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

昨今の医療・福祉現場においてコンピューターの使用は拡大しており、基本的な操作が行える事が必須のものとなっている。本講義にて、パーソナルコンピューターによる代表的なソフトウェアの操作が行える技術を身に付ける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コンピュータ+D19:AD26一の挙動を理解し、windowsの基本操作になれる。	講義・演習	特になし
2	データ管理法について学ぶ。wordの基本操作になれる。	講義・演習	USBメモリを持参する。
3	Wordの応用操作（図や表の挿入）を習得する。	講義・演習	USBメモリを持参する。
4	作成データの紙媒体出力の行い方、PDFへの変換方法を習得する。メールアドレスのアカウントを取得する。	講義・演習	USBメモリを持参する。
5	Powerpointの基本的な操作を学ぶ。	講義・演習	USBメモリを持参する。
6	Powerpointにてプレゼンテーション資料を作成する。 メールの基本文例を学び、送受信を習得する。	講義・演習	USBメモリを持参する。 自己紹介のスライドを作成してもらいます。
7	Powerpointで作成したスライドを用いてプレゼンテーションを行う。	演習	自己紹介を実施してもらいます。
8	Excelの基本操作を学ぶ。	講義・演習	Excelの基本操作より、簡易なカレンダーの作成を行います。（USBメモリを持参する）
9	Excelでのデータ入力・管理について理解する。	講義・演習	USBメモリを持参する。
10	Excelの関数を用いて、データ集計の基本を学ぶ。	講義・演習	USBメモリを持参する。
11	Excelの書式を調整し、審美性の高い表を作成する。	講義・演習	USBメモリを持参する。
12	Excelに入力したデータより、グラフを作成する。	講義・演習	USBメモリを持参する。
13	Powerpointを用いて専門内容（福祉における）のプレゼンテーション作成	講義・演習	USBメモリを持参する。 資料作成に必要となる各種参考書
14	Powerpointを用いて専門内容（福祉における）のプレゼンテーション発表	講義・演習	USBメモリを持参する。
15	終講試験・解説		USBメモリを持参する。

■受講上の注意

毎回の成果物を保存出来るように、USBメモリは毎回準備する事。また、紛失等起こさないよう保管には細心の注意を払うこと。

■成績評価の方法

終講試験（課題作成）　100%

■テキスト参考書など

適宜、資料配布

■備考

基本的にコンピューター室にて講義を行います。

リーダーシップ概論

講師: 石田尾　博夫

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

集団や組織を目標に向けて導いていくのが「リーダーシップ」の役割である。
マネージメントとリーダーシップはしばしば混同されるが、本講義では両者の
違いを明確にすると共に、どのようなリーダーシップ能力を培っていけば
いいのか、その必要性と意義について理解することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「リーダーシップ」の基本的概念について理解できる。	講義	「リーダーシップ」のイメージを各自認識し、述べること。
2	「リーダー」と「リーダーシップ」概念の区別について理解できる。	講義	リーダーとリーダーシップ概念の区別について予習を行うこと。 （小テストの実施）
3	「リーダーシップ」の必要性について理解できる。	講義	リーダーシップの必要性について予習を行うこと。 （小テストの実施）
4	「リーダーシップ」の歴史的変遷を理解できる。	講義	リーダーシップ理論の変遷について予習を行うこと。 （小テストの実施）
5	「リーダーシップ」のスタイルについて理解できる。	講義	リーダーシップスタイルについて予習を行うこと。 （小テストの実施）
6	「リーダーシップ」と「マネジメト」概念の区別について理解できる。	講義	リーダーシップとマネジメントの概念について予習を行うこと。 （小テストの実施）
7	「リーダー」の役割について理解できる。	講義	リーダーの役割について予習を行うこと。 （小テストの実施）
8	「マネジメント」の役割について理解できる。	講義	マネジメントの役割について予習を行うこと。
9	「人材マネジメント(HRM)論」の概念と必要性について理解できる	講義	人的資源管理(マネジメント)について予習すること （小テストの実施）
10	「人材開発モデル」の概念について理解できる	講義	人材開発モデルの概念について予習すること （小テストの実施）
11	マネジメント能力の鍛錬法について理解できる	講義	個人とモチベーションの理論について予習すること （小テストの実施）
12	リーダーシップの鍛錬法について理解できる	講義	リーダーシップの鍛錬法について予習すること （小テストの実施）
13	実際の人事システムについて、運用、人事考課のしくみと特徴について理解できる	講義	人事システムの運用について予習すること （小テストの実施）
14	能力開発の種類と目的について理解できる	講義	能力開発の種類と目的について予習すること （小テストの実施）
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと。事前準備、講義の予習をしてくること。
忘れ物の無いようにし、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%
② 小テスト　10%
③ 授業への参加態度　10%

■テキスト参考書など

「わかりやすい経営学」 石田尾博夫編 (株)オンデマンドスクエア

■備考

資料プリントは適宜配布する

問題解決論

講師: 川原　英範

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

専門職としての視点や問題解決のスキルを習得し、その技法を用いて情報分析を行い、解決策案の作成、行動計画作成、実施、評価を個人、職場、対人援助など様々な場面で活用できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	問題とは何か及び問題解決の流れを理解する	講義・GW	グループワークへの積極的な参加をすること
2	論理思考について理解する	講義・GW	グループワークへの積極的な参加をすること
3	情報の必要性を理解する	講義・演習	演習への積極的な参加をすること
4	問題を明確にする	GW	グループワークへの積極的な参加をすること
5	情報の収集と整理方法を理解する	講義 個人ワーク	個人ワークで使用した用紙は提出すること(後日返却)
6	情報の収集と整理方法を理解する	GW	BS法、KJ法について事前にどのような方法か調べること
7	原因究明の方法を理解する	講義 個人ワーク	個人ワークで使用した用紙は提出すること(後日返却)
8	原因究明を行う	GW	グループワークへの積極的な参加をすること
9	課題抽出の方法を理解する	個人ワーク GW	個人ワークで使用した用紙は提出すること(後日返却)
10	目標設定の方法を理解する	講義・GW	グループワークへの積極的な参加をすること
11	問題解決策案について理解する	講義・GW	グループワークへの積極的な参加をすること
12	実行計画作成について理解する	講義・GW	グループワークへの積極的な参加をすること
13	実行計画作成ができる	GW	グループワークへの積極的な参加をすること
14	プレゼンテーション力をつける	講義・GW	他者に分かりやすく説明をすること
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	問題解決のプロセス及びポイントを振り返ること

■受講上の注意

グループワークが多いので積極的な発言、参加をすること。また全ての授業に関連性があるので遅刻・欠席は厳禁。

■成績評価の方法

① 筆記試験　60%
② 課題　　40%

■テキスト参考書など

適宜資料を配布する

■備考

パワーポイントを使用する

介護の基本A

講師:三原 恵

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持・自立支援という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える視点を学習。
介護を必要とする高齢者や障害者等の生活には多様性があること、またニーズや支援の課題について自ら考え、学ぶ

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	私たちの生活の理解 生活とは何かについて学ぶ	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
2	生活にとって大切な要素について学ぶ	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
3	生活の特性について学ぶ	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
4	介護福祉を必要とする高齢者の暮らしを考える	講義・演習	授業においてわからない事は質問すること。 グループワークを通して、他者の意見に傾聴・共感する姿勢を持つこと。
5	介護福祉を必要とする高齢者の暮らしを考える	講義・演習	授業においてわからない事は質問すること。 グループワークを通して、他者の意見に傾聴・共感する姿勢を持つこと。
6	介護福祉を必要とする高齢者の暮らしを考える	講義・演習	授業においてわからない事は質問すること。 グループワークを通して、他者の意見に傾聴・共感する姿勢を持つこと。
7	介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解する	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
8	介護福祉を必要とする障害者の暮らしを考える	講義・演習	授業においてわからない事は質問すること。 グループワークを通して、他者の意見に傾聴・共感する姿勢を持つこと。
9	介護福祉を必要とする障害者の暮らしを考える	講義・演習	授業においてわからない事は質問すること。 グループワークを通して、他者の意見に傾聴・共感する姿勢を持つこと。
10	その人らしさやその多様性について理解する	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
11	生活ニーズやその多様性について理解する	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
12	私たち自身の生活のしづらさの視点について理解する	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
13	介護を必要とする人の生活のしづらさの視点について理解する	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
14	生活のしづらさを解消するための介護福祉士の視点と家族介護者とその支援について理解する	講義	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	常に学生自身の生活と比較する姿勢をもち、授業に取り組む。 授業においてわからない事は質問すること。

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　　② 小テスト　30%

■テキスト参考書など

介護の基本Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

テキスト及び肺プリントに基づいて授業を進める。
テキスト事例を活用し、グループワークを通して、多様な生活ニーズがあるということを自らの生活に置き換えて考える。

介護の基本B

講師：日高 清一郎

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、介護の意義と役割及び専門性について理解し、介護実践の基本姿勢について、ノーマライゼーションやICF、リハビリテーション、介護の倫理を通して、「尊厳の保持」「自立支援」という新しい考え方について理解を深める。
介護福祉士を取り巻く状況や背景を、わが国の介護の歴史を通して理解できるようになり、現在の介護福祉士の担う社会的役割を理解することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護の成り立ちを理解できる	講義	介護福祉に関する歴史年表について調べておくこと
2	介護の見方・考え方の変化を理解できる	講義・GW	確認テストの実施
3	介護の専門性について理解できる	講義・GW	日本介護福祉士会倫理綱領を読んでおくこと 確認テストの実施
4	利用者に合わせた生活支援について理解できる	講義・GW	介護について関連ある職種を調べておくこと
5	心理的アプローチへの支援について理解できる	講義・GW	アルツハイマー型認知症について調べておくこと
6	「自立」と「自律」に向けた支援について理解できる	講義・GW	アセスメントの必要性について調べておくこと
7	介護サービスのあり方について理解できる	講義	確認テストの実施
8	介護職が行う生活支援について理解できる	講義・GW	生活援助とその意義について調べておくこと
9	相談援助とその意義、自己覚知の必要性を理解できる	講義・GW	相談援助の必要性について調べておくこと
10	相談援助とその意義、自己覚知の必要性を理解できる	講義・GW	自身の性格（長所・短所）について考えておくこと
11	ノーマライゼーション,QOLの考え方、虐待の定義、内容、虐待防止法の理解ができる	講義・GW	確認テストの実施
12	ノーマライゼーション,QOLの考え方、虐待の定義、内容、虐待防止法の理解ができる	講義・GW	終講試験課題レポートの提出
13	介護におけるICFについて理解できる	講義・GW	ICFモデルにおける用語の定義を調べておくこと
14	介護実践におけるリハビリテーションの考え方について理解できる	講義	ICFにおけるリハビリテーションについて調べておくこと
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	これまでの講義内容についての復習を行うこと

■受講上の注意

授業開始時間に遅れないこと。　主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験 80%　② レポート 20%

■テキスト参考書など

介護の基本Ⅰ「介護福祉士養成講座委員会」中央法規

■備考

パソコン、パワーポイント　資料プリントは適宜配布する

介護の基本C

講師：田中 安平

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、介護の意義と役割及び専門性について理解でき、介護実践の基本姿勢について、ノーマライゼーションやICF、リハビリテーション、介護の倫理を通して、「尊厳の保持」「自立支援」という新しい考え方を身につける。
[授業終了時の達成課題（到達目標）]
①介護福祉士を取り巻く状況が理解できる。
②社会福祉士法及び介護福祉士法について理解できる。
③介護における専門職能団体の活動と生涯研修制度の意義と目的について理解し・評価できる。
④介護従事者の職業倫理について配慮できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護福祉士の活動の場と役割	講義	毎回、次回講義範囲を一読しておくこと
2	人生の最終段階の支援 災害時の支援	講義	「その人らしさ」とは何か、具体的に理解できること。概念整理。
3	社会福祉士法及び介護福祉士法の成立と改正の意義	講義	プロの介護福祉士になるために求められる自己研鑽がなぜ必要か理解する
4	介護福祉士養成教育の意義と期待される介護福祉士の理解	講義	求められる介護福祉士像の実態についてイメージできる
5	チームリーダーに求められる技能を理解できる	講義	チームリーダーに求められる技能を身につける 振り返り①
6	職能団体としての日本介護福祉士会とその他の団体	講義	職能団体の実施している研修等への参加の必要性を理解できる 振り返り②
7	介護実践における介護の倫理	講義	専門性毎に倫理はあることを理解する 疑問点は質問し、講義へ積極的に参加する
8	介護従事者の職業倫理（事例にみる展開：KJ法の体験）	GW	ブレストとKJ法による事例展開方法を体験する
9	介護従事者の職業倫理（事例にみる展開：KJ法の体験）	GW	倫理の多様性をブレストとKJ法による事例展開方法から体験する 振り返り③
10	概念から倫理の本質について理解する	講義・GW	倫理・道徳・社会規範など、医の倫理も含め様々な倫理観の有り様を知る
11	介護の倫理を理解する	講義	テストで知識の振り返りを図り、思考を確実にする 振り返り④
12	倫理的判断と介護独自の専門性について理解できる	講義・演習	介護独自の専門性のなかに介護の倫理が含まれていることを理解できる
13	介護福祉の本質（ニーズについて理解できる）	講義	日本介護福祉士会の倫理綱領からニーズ・デマンド等について違いを認識できる
14	プライバシーの保護と介護の倫理	講義	生活モデルと医学モデルの差異を理解する
15	終講試験およびまとめ	講義・筆記試験	

■受講上の注意

毎時間、講義始めまでにはテキストを一読しておくこと（予習）。疑問等に関する質問は講義時間内でも受け付けるが、私語はしないこと。

■成績評価の方法

① 終講試験（70%） ② 演習参加状況等を考慮する（30%）

■テキスト参考書など

介護の基本Ⅰ「介護福祉士養成講座委員会」 中央法規

■備考

資料等、準備物品は適宜配布する

介護の基本D

講師:迫　節子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携などフォーマル・インフォーマルな支援について理解する。
多職種協働による介護を実践するために保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する	講義	テキストP48～54を読んでくること
2	障害者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する	講義・演習	テキストP54～58を読んでくること
3	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係について学ぶ	講義	テキストP61～63を読んでくること
4	一般的に想定されるインフォーマルサービスについて学ぶ	講義・演習	テキストP63～66を読んでくること
5	地域連携の意義と目的や地域福祉にかかわる組織・団体について学ぶ	講義	テキストP68～76を読んでくること
6	地域福祉の担い手について学ぶ 利用者を取り巻く地域連携の実際を理解する	講義	テキストP76～82を読んでくること
7	多職種連携・協働と社会の動きについて学ぶ	講義	テキストP140～144を読んでくること
8	多職種連携・協働の必要性、効果について理解する	講義	テキストP144～150を読んでくること
9	介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について学ぶ	講義	テキストP152～156を読んでくること
10	多職種のかかわりには多様な視点と受容が必要であることを理解する	講義	テキストP157～165を読んでくること
11	介護福祉職と協働する様々な職種について学ぶ	講義	テキストP167～176を読んでくること
12	多職種協働にかかわる専門職の役割と機能を理解する	講義	テキストP176～182を読んでくること
13	多職種連携の実態から専門性を理解する	講義	テキストP183～191を読んでくること
14	自立支援介護における多職種連携の実際について学ぶ	講義	テキストP192～198を読んでくること
15	終講試験・まとめ	講義 筆記試験	

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと　積極的に演習では発言をすること　忘れ物をしないようにすること

■成績評価の方法

①終講試験　60%　②確認テスト　20%　③レポート・提出物　20%

■テキスト参考書など

介護の基本Ⅱ 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

介護の基本E

講師：迫 節子

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	セーフティマネジメントの考え方を理解し安全の確保を組織全体で取り組む重要性を学ぶ	講義	テキストP84～P87を読んでくる
2	リスクとリスクマネジメント、過誤、事故苦情について理解する	講義・GW	テキストP88～P93を読んでくる
3	身体拘束について理解する	講義・GW	テキストP94～P96を読んでくる
4	福祉サービスに求められる安全・安心につながる取り組みについて理解する	講義・GW	テキストP97～P103を読んでくる
5	ヒヤリハット、事故報告書の必要性や記入方法について理解できる	講義	様式を各自準備する
6	事故防止のための対策について対応の仕方、事故原因の分析、組織体制について理解する	講義・GW	テキストP103～P104を読んでくる
7	生活の場の安全管理について予防や対策について考える	講義・GW	テキストP105～P113を読んでくる
8	住んでいる地域のリスクと防災状況を知る	講義・GW	防災マップを準備
9	防火、防災訓練計画を作成することができる	講義・GW	
10	介護福祉職に必要な感染に関する知識について学ぶ	講義	テキストP115～P117を読んでくる
11	生活の場における感染症対策について学ぶ	講義	テキストP118～P119を読んでくる
12	感染の標準予防策について理解できる	講義・GW	テキストP120～P126を読んでくる
13	感染症発生時の対応について理解できる	講義	テキストP127～P134を読んでくる
14	安全な薬物療法を支える視点と連携について学ぶ	講義	テキストP134～P136を読んでくる
15	終講試験・まとめ	講義 筆記試験	

■受講上の注意

忘れ物の無いようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

① 筆記試験　80%　② レポート・小テスト　20%

■テキスト参考書など

介護の基本Ⅱ 「介護福祉士養成講座委員会」中央法規　　資料プリントは適宜配布する

■備考

介護の基本F

講師: 西田　一世

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

「尊厳の保持」「自立支援」とう新しい介護の考えを理解するとともに,「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習をする。また, 介護における安全やチームケア等について理解する。
[授業修了時の到達目標]
①介護における介護従事者の健康管理の意義と目的を理解する。
②介護における介護従事者に必要な知識と技術を理解し、実践できる。
③介護における介護従事者の安心して働ける環境づくりについて学ぶ。
④法規の面から労働安全対策と安全衛生管理体制を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業概要を理解できる	講義	介護職にとっての健康とは何かを考えておくこと
2	介護を仕事として捉えることができる	講義・GW	介護の仕事と他産業の仕事の違いを踏まえておくこと
3	介護職の離職の背景を理解できる	講義・GW	介護職が勤務する事業所や施設の特徴を理解しておくこと
4	職場において、介護職が抱える身体的、精神的負担の現状を理解できる	講義・GW	腰痛、ストレスについて予防方法を調べておくこと
5	職場における燃え尽き症候群の予防方法について理解できる	講義・GW	ロールプレイング
6	ストレスケアとストレスチェックについて理解できる	講義・GW	ストレスチェック制度について予習をしておくこと
7	まとめ(レポート提出)	講義	前半要点整理
8	労働基準法の概要を理解できる	講義・GW	労働基準法が何故存在するのか趣旨を予習しておくこと
9	労働基準法と介護職の関係について理解できる	講義・GW	労働基準法が何故存在するのか趣旨を予習しておくこと
10	労働安全衛生法の概要を理解できる	講義・GW	産業医、衛生委員会、健康診断について予習しておくこと
11	労働安全衛生法と介護職の関係について理解できる	講義・GW	産業医、衛生委員会、健康診断について予習しておくこと
12	介護事業所の経営の仕組みと、給料の支払方法について理解できる	講義・GW	介護職員処遇改善加算の要旨について予習しておくこと
13	採用から退職までの仕組みについて理解できる	講義・GW	
14	まとめ(レポート提出)	講義	後半要点整理
15	終講試験・まとめ		

■受講上の注意

本講義はグループワークを中心に行います。
討論に正解や間違いなどはありません。積極的に発言してください。

■成績評価の方法

① 終講試験　60%
② レポート　40%

■テキスト参考書など

介護の基本Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
知っておきたい働くときのルールについて　厚生労働省　労働基準局　監督課

■備考

適宜プリントを配布する

コミュニケーション技術A

講師: 岡山　隆二

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。
[授業修了時の到達目標]
・生活者としての基本的なコミュニケーションの知識と技術を習得し、介護におけるコミュニケーションの基本的知識と技術に連動できる。
・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション技法の基本を表現できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コミュニケーションの意義と目的を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
2	コミュニケーションの基本を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
3	利用者・家族との信頼関係の形成方法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
4	利用者を深く理解するためのコミュニケーションを理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
5	人間に備わるコミュニケーション願望と介護の特性、生活支援における介護技術とコミュニケーションを理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
6	介護福祉士に求められるコミュニケーション技術を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
7	話を聴く技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
8	利用者の感情表現を察する技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
9	利用者の納得と同意を得る技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
10	質問の技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
11	相談・助言・指導の技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
12	利用者の意欲を引き出す技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
13	利用者と家族の意向を調整する技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
14	複数の利用者がいる場面でのコミュニケーション技法を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

・事前準備（予習）として、授業に係わる項目についてテキストを読んでおく
・コミュニケーション技術の授業のため、積極的に発言・表現する

■成績評価の方法

①終講試験　80%
②授業への参加態度　20%

■テキスト参考書など

コミュニケーション技術 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

・資料プリントは適宜配布する
・プロジェクター、スクリーンを適宜使用する

コミュニケーション技術B

講師: 岡山　隆二

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。
[授業修了時の到達目標]
・利用者の特性に応じたコミュニケーションの基本的対応ができる。
・介護におけるチームワークを促進するコミュニケーション技術を使用できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コミュニケーションの障害、障害の原因、障害を理解する視点を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
2	さまざまなコミュニケーション障害を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
3	コミュニケーション障害のある利用者を支えるコミュニケーション技術、状態を観察し、情報収集する技術、傾向を分析・解釈・評価する技術を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
4	コミュニケーションの方法を立案し、実践する技術、実践されたコミュニケーションの内容について、妥当性を検証する技術を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
5	高次脳機能障害、失語症、構音障害の特性に応じたコミュニケーション技術を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
6	認知症、若年性認知症、視力の障害の特性に応じたコミュニケーション技術を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
7	聴力の障害、知的障害、精神障害の特性に応じたコミュニケーション技術を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
8	チームのコミュニケーションを理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
9	介護における記録の意義と目的、種類を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
10	記録の書き方と留意点を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
11	記録の活用、情報の保護と管理を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
12	報告・連絡・相談を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
13	会議を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
14	会議の種類と運用を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

・事前準備（予習）として、授業に係わる項目についてテキストを読んでおく
・コミュニケーション技術の授業のため、積極的に発言・表現する

■成績評価の方法

①終講試験　80%
②授業への参加態度　20%

■テキスト参考書など

コミュニケーション技術 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

・資料プリントは適宜配布する
・プロジェクター、スクリーンを適宜使用する

生活支援技術A

講師：徳田 春光

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」

尊厳の保持の観点から、どのような状態であったても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する。

「授業修了時の達成課題」

・利用者の自立に向けた移動の意義と目的について理解し実践的技術を身につけることができる。
・安全で的確な移動、移乗の介護の技法を理解し行うことができる。
・ベッドメーキングについて学習し技術を身につけることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション 介護実習演習の受け方、介護実習室の使用法について理解する	講義	
2	生活支援 生活の理解・生活支援の考え方を理解する	講義・GW	・自分がどのような生活をしているかを考えてくる ・テキスト生活支援技術Ⅰ「生活支援の理解　生活支援技術の基本的な考え方」を読んでくること
3	生活支援と介護過程 ICFに基づく生活機能のアセスメントとその視点について理解できる。	講義・演習	テキスト「生活支援の環境　生活支援と介護過程」を読んでくること
4	生活環境の整備 ベッドメイキングができる。	講義・DVD	テキスト生活支援技術ⅡP342～P348を読んでくること
5	自立に向けた移動・移乗の介護 移動の意義と目的を理解し、移動の介助をするために介護福祉職がすべきことを理解できる。	講義・演習	テキスト「自立した移動」を読んでくること
6	自立に向けた移動・移乗の介護 移動における介護の原則・ボディメカニクスが理解できる。	演習	・テキスト「自立に向けた移動、移乗の介護」を読んでくること ・終了時にレスポンスシートを書いて提出する
7	自立に向けた移動・移乗の介護 ベッド上での移動の留意点と方法を理解しできるようになる。 （上方移動・水平移動・側臥位・安楽な体位）	演習	・テキスト「体位変換の介助　上方移動　水平移動　側臥位」を読んでくること ・終了時にレスポンスシートを書いて提出する
8	自立に向けた移動・移乗の介護 仰臥位から端座位 端座位から立位の介助ができるようになる。	演習	・テキスト「体位変換の介助　起き上がりから端座位から立位の介助」を読んでくること ・終了時にレスポンスシートを書いて提出する
9	安楽な姿勢、体位を保持する介助の目的を理解できる。	講義・演習	・テキスト「安楽な姿勢、体位を保持す介助」を読んでくること
10	自立に向けた移動・移乗の介護 車いす名称・操作方法・構造を理解し車いす走行ができるようになる。	演習	・テキスト「車いすでの移動の介助」を読んでくること ・終了時にレスポンスシートを書いて提出する
11	自立に向けた移動・移乗の介護 車いすへの移乗介助ができるようになる①	演習	・テキスト「車いす介助　ベッドから車いすの介助　車いすからベッド」を読んでくること ・終了時にレスポンスシートを書いて提出する
12	自立に向けた移動・移乗の介護 車いすへの移動介助ができるようになる②	演習	・テキスト「車いすでの移動の介助　段差を上がる、下る　坂道の介助　エレベーターでの介助」を読んでくること ・外での演習（帽子・水分持参）
13	自立に向けた移動・移乗の介護 歩行介助の留意点と介助方法を理解しできるようになる。	演習	・テキスト「歩行の介助」を読んでくること ・学内・外での演習 ・終了時にレスポンスシートを書いて提出する
14	自立に向けた移動・移乗の介護 移動の介護における多職種との連携について理解できる。	講義・演習	・テキスト「移動の介護における多職種連携」を読んでくること
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと。積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないようにすること。

■成績評価の方法

①終講試験（筆記）70%　②実技試験　20%　③レスポンスシート　10%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

実習服、実習靴　資料プリントは適宜配布する

生活支援技術B

講師：鶴東 章子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

尊厳の保持の視点から、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。
被服生活の意義と目的を理解し、利用者個々人にとって適切な被服管理が出来るような知識と技術を身に付けることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	被服生活の意義と目的について理解できる	講義	
2	被服の素材と特徴について理解できる	講義・演習	レポート提出
3	被服の素材と特徴について理解できる	講義	振り返り①
4	被服と皮膚の衛生について理解できる	講義・演習	レポート提出
5	裁縫の基礎的技術(補修)を習得する	演習	振り返り② グループごとに裁縫道具・アイロン・アイロン台を準備する
6	裁縫の基礎的技術(補修)を習得する	演習	授業中説明したところまで完成させておく
7	裁縫の基礎的技術(補修)を習得する	演習	グループごとに裁縫道具・アイロン・アイロン台を準備する
8	着やすくて心地よい被服について理解する	講義・演習	実習物の仕上げ提出
9	介護実習着にネームをつけることができる	演習	振り返り③/実習着・ネームを準備する グループごとに裁縫道具・ｱｲﾛﾝ・ｱｲﾛﾝ台を準備する
10	介護実習着にネームをつけることができる	演習	点検までに全ての実習着にネームをつける
11	被服の種類・素材別の洗濯方法について理解できる	講義	衣服の取り扱い表示を調べる
12	しみ抜きの方法を理解し、実践できる	演習	レポート提出
13	衣服の収納管理について理解し、実践できる	講義・演習	振り返り④
14	寝具の衛生管理について実践できる	講義 実技試験	グループごとに裁縫道具・アイロン・アイロン台を準備する
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

事前準備・講義の予習をする。忘れ物の内容にし、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験　60%　② レポート・作品　20%　③ 実技テスト　20%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅰ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

生活支援技術C

講師：徳田 春光

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」

尊厳の保持の観点から、どのような状態であったても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する。

「授業修了時の達成課題」

・身じたくの意義と目的について理解し実践的技術を身につけることができる。
・食事の意義と目的について理解し実践的技術を身につけることができる。
・利用者の尊厳を大切にしながら、日常生活行為の基礎的理解とアセスメント能力、基本的な介護技術の実践能力が習得できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの意義と目的を理解し、利用者の状態や状況に応じた介護のポイントが理解できる。	講義・GW	テキスト「自立した身じたくとは」を読んでくる
2	自立に向けた身じたくの介護 整容の意義と介助方法を理解し実践できる（洗顔・清拭・整髪の介助）	講義・GW	テキスト「自立に向けた身じたくの介護　洗顔・整髪の介護」を読んでくる
3	自立に向けた身じたくの介護 整容の意義と介助方法を理解し実践できる（ひげ剃り・爪の手入れ・耳・化粧）	講義・演習	テキスト「自立に向けた身じたくの介護　ひげ剃り、爪の手入れ、耳、化粧の介護」を読んでくる 最後にレスポンスシートを書いて提出する
4	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケアの目的と効果と介助方法を理解し実践できる（ブラッシング・口腔清拭・義歯洗浄）①	講義・演習	テキスト「自立に向けた身じたくの介護　口腔ケア・義歯の清掃」を読んでくる
5	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケアの目的と効果と介助方法を理解し実践できる（ブラッシング・口腔清拭・義歯洗浄）②	講義・演習	テキスト「自立に向けた身じたくの介護　口腔ケア・義歯の清掃」を読んでくる 最後にレスポンスシートを書いて提出する
6	自立に向けた身じたくの介護 衣服の着脱の目的と介助方法を理解し実践できる （自立度の高い利用者の場合）	講義・演習	テキスト「自立に向けた身じたくの介護　衣服の着脱の介助」を読んでくる 最後にレスポンスシートを書いて提出する
7	自立に向けた身じたくの介護 衣服の着脱の目的と介助方法を理解し実践できる （自立度の高い利用者の場合）	講義・演習	テキスト「自立に向けた身じたくの介護　衣服の着脱の介助」を読んでくる 最後にレスポンスシートを書いて提出する
8	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの介護における多職種との連携について理解できる	講義・GW	テキスト「身じたくの介護における多職種との連携」を読んでくる 最後にレスポンスシートを書いて提出する
9	自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的を理解できる。	講義	テキスト「食事の意義と目的」を読んでくる
10	自立に向けた食事の介護 食事の介護を行うにあたって工夫することや環境づくり、基本原則を理解できる	講義・GW	テキスト「自立に向けた食事の介護」を読んでくる 最後にレスポンスシートを書いて提出する
11	自立に向けた食事の介護 利用者の心身の状態、状況に応じた食事介助が実践できる①	DVD・演習	・テキスト「利用者の状態に応じた食事の介護　部分的介助が必要な利用者」を読んでくる ・水分、弁当、汁物を持参すること ・最後にレスポンスシートを書いて提出する
12	自立に向けた食事の介護 利用者の心身の状態、状況に応じた食事介助が実践できる②	DVD・演習	・テキスト「利用者の状態に応じた食事の介護　部分的介助が必要な利用者」を読んでくる ・水分、弁当、汁物を持参すること ・最後にレスポンスシートを書いて提出する
13	自立に向けた食事の介護 誤嚥と窒息防止について理解できる	講義・演習	・テキスト「誤嚥の防止のための支援」を読んでくる ・最後にレスポンスシートを書いて提出する
14	自立に向けた食事の介護 食事の介護における多職種との連携について理解できる。	演習・GW	・テキスト「自立に向けた食事の介護　食事の介護における多職種との連携」を読んでくる ・最後にレスポンスシートを書いて提出する
15	終講試験とまとめ	終講試験	

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと。積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないようにすること。

■成績評価の方法

①　終講試験（筆記）70%　②　実技試験　20%　③　レスポンスシート10%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅱ 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

実習服、実習靴　資料プリントは適宜配布する

生活支援技術D

講師:徳田 春光

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

授業の目的・ねらい」
　尊厳の保持の観点から、どのような状態であったても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する学習とする。
「授業修了時の達成課題」
・入浴、清潔保持の意義と目的について理解し実践的技術を身につけることができる。
・排泄の意義と目的について理解し実践的技術を身につけることができる。
・利用者の尊厳を大切にしながら、日常生活行為の基礎的理解とアセスメント能力、基本的な介護技術の実践能力が習得できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自立に向けた入浴・清潔保持の介助　入浴と清潔保持の目的を理解できる	講義	テキスト「自立した入浴・清潔保持とは」を読んでくる
2	自立に向けた入浴・清潔保持の介助 安全・的確な入浴の介助技法が実践できる（片麻痺のある利用者のシャワー浴と個浴）	講義・演習	テキスト「個浴での介護方法とシャワー浴」を読んでくる ・最後にレスポンスシートを書いて提出する
3	自立に向けた入浴・清潔保持の介助 安全・的確な入浴の介助技法が実践できる（特殊浴槽（機械浴）を使用しての入浴・リフト浴）①	講義・演習	テキスト「特殊浴槽を使用しての入浴・いすでのリフト浴」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
4	自立に向けた入浴・清潔保持の介助 安全・的確な入浴の介助技法が実践できる（特殊浴槽（機械浴）を使用しての入浴・リフト浴）②	演習	テキスト「特殊浴槽を使用しての入浴・いすでのリフト浴」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
5	自立に向けた入浴・清潔保持の介助 安全・的確な清潔保持の介助技法が実践できる（全身清拭）	DVD・演習	テキスト「全身清拭」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
6	自立に向けた入浴・清潔保持の介助 安全・的確な清潔保持の介助技法が実践できる（部分清拭　手浴・足浴・洗髪）	講義・演習	テキスト「部分清拭（部分清拭　手浴・足浴・洗髪）」を読んでくる最後にレスポンスシートを書いて提出する
7	自立に向けた入浴・清潔保持の介助 多職種の連携について理解できる	講義	テキスト「入浴・清潔保持の介護における多職種との連携」を読んでくる
8	自立に向けた排泄の介護・排泄の意義と目的を理解できる	講義	テキスト「自立に向けた排泄の介護　自立した排泄とは」を読んでくる
9	自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄介助技法が実践できる（トイレでの排泄介護。車いす利用者の介助）	講義・演習	・テキスト「トイレ・車いす利用者の介助」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
10	自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法が実践できる（ポータブルトイレ・立位でのパッド交換）	講義・演習	・テキスト! ポータフルトイレでの排泄介助、立位でのパッド交換」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
11	自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法が実践できる（尿器・差し込み便器）	講義・演習	テキスト「尿器・差し込み便器」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
12	自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法が実践できる（おむつ交換）	DVD・演習	・テキスト「おむつでの排泄介護」を読んでくる・最後にレスポンスシートを書いて提出する
13	自立に向けた排泄の介助 排泄障害について理解できる	講義	テキスト「頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応」を読んでくる
14	自立に向けた排泄の介助 多職種との連携について理解できる	講義	テキスト「多職種との連携」を読んでくる
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと,積極的に演習に取り組みこと,忘れ物をしないようにすること

■成績評価の方法

①終講試験（筆記）　70%　②実技試験　20%　③レスポンスシート　10%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅱ 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

実習服、実習靴 資料プリントは適宜配布する

生活支援技術E

講師：松野下 信三、岩崎 千賀子、山下 和宏

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。精神障害者についての理解を深め、障害に応じた介護の技術や知識を習得する。利用者が家族や社会へと参加活動ができるように援助していける。対象者が“生きている”という実感をもてるような社会的支援ができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害者と生活を理解できる。	講義	テキストにて予習を行うこと
2	精神障害者の生活支援と環境調整を理解できる	講義・DVD	テキストにて予習を行うこと
3	精神障害者への介護支援技術を理解できる	講義・GW	テキストにて予習を行うこと
4	精神障害者に対する多職種連携支援を理解できる	講義・GW	テキストにて予習を行うこと
5	精神障害者についてのまとめ	講義	テキストにて復習を行うこと
6	発達障害のある人と生活を理解できる 生活支援して環境整備のやり方の工夫ができる	講義	テキストにて予習を行うこと 小テスト
7	発達障害の介護技術が展開できる 他職種の役割と協働・連携を身につける	講義	小テストの答え合わせ
8	知的障害のある人と生活を理解できる 生活支援して環境整備のやり方が工夫できる	講義	小テスト
9	知的障害の介護技術が展開できる 他職種の役割と協働連携を身につける	講義	小テスト答え合わせ
10	発達障害・知的障害のまとめ	講義	テキストを読んで復習しておく
11	認知症介護の基本視点について理解できる	講義・GW	テキストを読んで予習しておく
12	認知症がある方の背景を理解し、具体的な介護計画が立案できる	講義・GW	小テスト実施
13	介護者の困ることと認知症がある方の困る事を理解し、患者主体に考える事ができる	講義・GW	前回講義の復習を行うこと 小テスト実施
14	認知症がある方の情報を集め分析する過程を理解できる・在宅支援が理解できる	講義・GW	前回講義の復習を行うこと 小テスト実施
15	まとめ・終講試験	講義 終講試験	テキストにて復習を行うこと

■受講上の注意

主体的に講義に臨み、積極的に発言、発表すること。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② 小テスト　20%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅲ「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規　配布資料を適宜使用予定

■備考

資料プリントは適宜配布する

生活支援技術F

講師: 寺師　睦美　・　野元　美佐代

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。
学習した知識や技術を総合して、具体的な食事サービスの提供の基本となる実践力を身につける。
利用者が生活を継続していくためには、家事に関する支援が不可欠になる。利用者を主体とした生活の維持・再構築の視点、具体的な方法、家族支援や地域サービスの活用の方法など、在宅支援の全般を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生活を継続するための家事の重要性を学び、利用者への支援の意味を理解できる。	講義	「第1章生活支援とは何か」を読んで、まとめてくること
2	栄養や食文化の基礎知識を学び、健康的・社会的・文化的な生活を営む管理方法を理解できる。	講義	「第3章家庭生活にかかわる基礎知識」を読んで、まとめてくること
3	食の支援をする上で必要な知識と技術など調理の基本を学び実習する。	講義・演習	「第4章家事の介護」を読んで、まとめてくること
4	食品の特徴を理解し、適切な調理操作を実習する。	講義・演習	実習内容を予習し、実施した内容をまとめること
5	高齢者の身体の特徴を理解し、適切な調理操作を実習する。	講義・実習	実習内容を予習し、実施した内容をまとめること
6	自立に向けた介護食の基本を学び、高齢者の栄養や嗜好を考慮した食事作りを実習する。	講義・実習	実習内容を予習し、実施した内容をまとめること
7	摂食・嚥下状態に応じた食形態を学び、体調に応じた適切な食事作りを実習する。	講義・実習	実習内容を予習し、実施した内容をまとめること
8	味や食の楽しみを考慮した食環境と、食べやすい食器・器具の選択を学び理解できる。	講義	「第3章第1節家庭生活の理解」を読んで、まとめてくること
9	食品の保存や加工食品の活用、衛生管理の基本を理解し、安全な食生活を営む技法を理解できる。	講義・演習	「第3章第2節家庭生活の営み」を読んで、まとめてくること
10	まとめ「第１章から第４章」	講義	第１章から第４章まで復習してくる
11	家庭生活にかかわる基本知識を理解することができる	講義	テキストを読んで予習してくること
12	家事支援の意義と目的を理解することができる	講義	テキストを読んで予習してくること
13	家事支援における介護技術を理解することができる	講義・演習	テキストを読んで予習してくること
14	他職種の役割と協働について理解することができる	講義	テキストを読んで予習してくること
15	終講試験・まとめ	筆記試験	テキストを読んで復習をしてくる

■受講上の注意

遅刻、欠席のないようにすること。講義の事前学習を行い、課題や提出物の期限を遵守すること。私語はしないこと。事前準備をし、忘れ物のないようにする。

■成績評価の方法

① 終講試験　　80%　② 課題レポート　20%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅰ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

講義で必要な資料等については、適宜紹介、配布する。

生活支援技術G

講師: 吉弘　裕子　・　中村　一義

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。

１～８（点字）
９～１５（手話）
聞こえないことの日常の不便さを知ると同時に日本語と手話についての関連への理解を深め、聴覚障害者の人としての権利の保持等手話の技術を使用しての安全な援助知識を習得することを目指す

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	点字の歴史と概要 視覚障害者の情報収集	講義・演習	点字の50音（氏名・学校名を書く）　墨訳演習
2	点字の基本的な仮名遣い	講義・演習	演習4～8 墨訳演習
3	点字での数字・アルファベットの表し方	講義・演習	演習9～15 墨訳演習
4	点字の記号類の使い方	講義・演習	演習22・23 墨訳演習
5	点訳の分かち書き・切れ続きの概略	講義・演習	演習19～21 点字による自由作文
6	書き方の実際（点訳のレイアウト）	講義・演習	封書の書き方 点字ヨミ演習
7	書き方の実際 視覚障害の現状の理解	講義・演習	ハガキ・名刺の作成 点字ヨミ演習
8	振り返り・まとめ	講義・演習	点訳・墨訳演習
9	聴覚障害者の基本的概念についての理解	講義・演習	自己紹介のやり方の技術の取得 基本をマスターしての応用
10	手話について 同時に日本語の言葉の意味を考える	講義・演習	色々な氏名の表現 前回の実技の確認
11	聴覚障害者の現状を理解すること(差別等)	講義・演習	手話での挨拶のやり方の技術の取得 前回の技術の確認
12	メラディアンの法則について	講義・演習	身体表現 手話の実技(数学・指文字)
13	耳のしくみ(聞こえ方)	講義・演習	手話の実技(日常用語)
14	常識の基準とは	講義・演習	手話の実技(日常用語)
15	まとめ・終講試験・筆記ならびに実技試験	講義 終講試験	テキストを読んで復習しておくこと

■受講上の注意

点字器の使用は講義中のみ。集中して演習に取り組んでください。わからないことは質問してください。各回、講義中に点訳したものは提出してもらいます。常に学ぶ姿勢を正しく、居眠り、私語、忘れ物に注意。事前準備、予習、復習をしてくること。板書は必ず記録すること

■成績評価の方法

①　終講試験　　80%　　②　実技試験　　20%

■テキスト参考書など

１～８：初めての点訳（視覚障害者介護技術シリーズ１）［第２版］　・「全国視覚障害者情報提供施設協会」　９～１５：資料を配布

■備考

１～８：点字器等の準備をお願いします。資料プリントは適宜配布します。必要に応じてDVD（盲ろう・ガイドについて等）を使用します。

生活支援技術H

講師: 潟永　しおみ

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。
障害のある人の生活の概念や生活支援の理念を理解し，自立に向けた適切な介護技術の展開・留意点を習得することができる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	視覚障害者に対し安全に移動し，安心した生活を送るための具体的な方法を理解しそれを展開することができる	講義・演習・GW	演習室使用・動ける服装・白杖・アイマスク グループワークの発表・小テストの実施
2	視覚障害・聴覚障害のある方の不便さを理解し，生活面で他職種の役割が言える	講義・演習・GW	ゆうあいガイドブック利用
3	高次脳機能障害の方が日常生活に必要な支援や配慮について事例検討し発表することができる	講義・GW	事例検討
4	心臓機能に障害がある人の日常生活の支援について理解し他職種との連携について方法が言える	講義	ゆうあいガイドブック利用
5	腎臓不全の方の生活を知り日常生活が活発化するための計画を具体的に立てることができる	講義・GW	事例検討 ゆうあいガイドブック利用
6	精神障害のある方の在宅支援について，支援のポイントや他職種連携などワークを通して介護職がそのような気づきが必要か話し合うことができる	講義	事例検討
7	呼吸器機能障害のある方の生活における留意点を理解し他職種との連携について方法が言える	講義・演習	吸入器持参します 酸素マスク等あれば準備を（事前に連携とります）
8	膀胱・直腸機能障害におけるストーマの種類や日常生活支援について介護職が行なえること，観察点について理解することができる	講義・GW	演習室使用・動ける服装・パウチ使用（ワンピース，ツーピースあれば使います）・演習室の人形（ストーマあり）を利用します
9	他職種との連携について 他職種の役割を理解し連携の必要なタイミングやその方法について理解することができる	講義・GW	他職種にどのような職種があるか事前に調べておくこと
10	多職種との連携について 事例を通して連携の必要なタイミングとその方法を理解するとともにワークを通して自己の課題を見出すことができる	講義・演習	事例検討
11	運動機能障害の方の日常生活の介助方法について講義の後体験を通して理解し実施できる	講義・演習	演習室使用　動ける服装 タオル　バスタオル使用
12	難病の方　主にパーキンソン病の方の生活支援について日内変動等の症状を理解し実施することができる	講義・演習	難病ガイドブックあれば使用
13	認知症の症状がある本人の世界を知り認知症について理解を深める。事例を通して適切な接し方を学び介護において注意すべきルールが言える	講義・GW	事例検討
14	認知症の方の家族支援について家族の受け入れ段階を理解したうえで連携やレスパイトについても考慮できる	講義・DVD	
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

障害の理解Ⅱで学んだことをリンクさせながら演習を通して理解を深める内容です。演習室を使ったり準備するものもありますので連携をとりましょう。

■成績評価の方法

① 授業への参加（グループワーク含）の参加態度 30%　② 終講試験　70%

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅲ 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
ゆうあいガイドブック　難病ガイドブック
作成した資料を配布

■備考

資料プリントはその都度又は事前に配布します

生活支援技術I

講師：松野下 信三、横山 尚宏、戌亥 啓一、原田 智晃

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。
介護の分野において、安全に介助をすることは必須である。介護福祉士は自分の体に極力負担をかけず、寝返りや起き上がり、立ち上がり、トランスファーなどの動作を介助しなければならない。また、動作の際には全介助ではなく、最大限に対象者様の力を発揮させる必要もある。本講義では高齢者の特性を学び、トランスファー技術などを習得することを目的とする。
高次脳機能障害のある人を理解するために、高次脳機能障害とは何かを学ぶ。高次脳機能障害のある人の特徴に合わせた介護技術を展開するための視点を学ぶ。高次脳機能障害のある人に適切な介護技術や介護を提供するうえでの留意点を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	運動機能に応じた介護 高齢者の特性や寝返り、起き上がりの介助方法を学ぶ	講義	高齢者の特性を事前に学習しておく。 授業資料は事前に目を通す
2	前回学んだ寝返り、起き上がりの解除方法を復習し、立ち上がりやトランスファー技術を学習する	講義	高齢者の特性を事前に学習しておく。 授業資料は事前に目を通す
3	前々回、前回の復習と歩行介助の方法を習得する	講義	高齢者の特性を事前に学習しておく。 授業資料は事前に目を通す
4	高次脳機能障害者と生活を理解できる	講義	指定の教科書持参
5	高次脳機能障害者の生活支援と環境調整を理解できる	講義・DVD	指定の教科書持参
6	高次脳機能障害者への介護と多職種連携を理解できる	講義	指定の教科書持参
7	高次脳機能障害のまとめ	講義	指定の教科書持参
8	自立に向けた居住環境の整備－居住整備の意義と目的／生活空間と介護	講義	事前配布資料を講義前までに予習
9	自立に向けた居住環境の整備－居住環境のアセスメント	講義・演習	事前配布資料を講義前までに予習
10	自立に向けた居住環境の整備－安心で快適な生活の場づくり／他職種の役割と協働	講義・演習	事前配布資料を講義前までに予習
11	事例検討を通して快適な生活の場づくりを理解する	GW	GWに積極的に参加すること
12	聴覚障害について理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
13	聴力検査・補聴器などについて理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
14	コミュニケーションの補償について理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
15	言語障害、重複障害のコミュニケーションについて理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する

■受講上の注意

1～3 は実技も実施するため、動きやすい服装で講義に臨む。GWや演習では積極的に発言をするように。

■成績評価の方法

① 終講試験100%

■テキスト参考書など

1～3　生活支援技術Ⅰ・Ⅲ 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規　4～7　生活支援技術Ⅲ「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規
8～11　生活支援技術Ⅰ 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規　12～15　生活支援技術Ⅲ「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規
適宜，プリント資料を配布する

■備考

終講試験は授業終了後、別日に設ける。

生活支援技術J

講師: 中江　ミヤ子

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	睡眠の意義と目的、アセスメントを理解できる。	講義・GW	テキスト7章1節の1・2を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。 （事前に配布する）
2	睡眠の意義と目的、アセスメントの実際を説明することができる。	講義	1・2回目までのテキスト範囲と配布資料の復習をする。 小テストの実施
3	睡眠の介護技術　安眠の介助の基本的な理解ができる。	講義・GW	7章2節の1・3(睡眠の介助におけるアセスメントの視点)を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
4	睡眠の介護技術　ベッドメイキングのポイントを理解できる。	GW	7章2節の2を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
5	睡眠の介護技術　睡眠における状態別介助の視点を理解できる。	GW	7章2節の3を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
6	睡眠の介護技術　睡眠と薬、睡眠の介助のポイントを理解できる。	講義・GW	7章2節の4を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
7	睡眠の介護技術の実際を説明することができる。	講義・GW	3回目から7回目までのテキスト範囲と配布資料の復習をする。 小テストの実施
8	睡眠の介護における他職種の役割と協働を理解できる。	講義・GW	7章3節を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
9	終末期の意義と介護の役割を理解できる。	講義・DVD	8章1節を読んでくる。
10	終末期の意義と介護の役割を理解できる。	講義・GW	8章2節の1を読んでくる。 9回目の授業の内容を復習する。9回目の配布資料を持ってくる。
11	終末期におけるケアのポイントを理解できる。	講義・GW	8章2節2を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
12	終末期に欠かせない家族支援・介護福祉職への支援について理解できる。	講義・GW	8章2節の3を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
13	終末期における他職種の役割と協働について理解できる。	講義・GW	8章3節を読んでくる。 事前課題の各項目を記入し、持ってくる。
14	終末期の介護について説明ができる。	講義	9回目から13回目までのテキスト範囲と配布資料の復習をする。 小テストの実施
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。レポートの提出期限を守ること。グループワークや講義に主体的に臨むこと。
配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

① 授業への参加態度（10%）　② 授業中のレポート（10%）　③ 試験（60%）　④ 小テスト（20%）

■テキスト参考書など

生活支援技術Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
見て覚える介護福祉士ナビ2019　中央法規
適宜資料を配布

■備考

介護過程Ⅰ

講師：迫 節子

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養う。
① 介護過程の意義・目的を理解する。
② 介護過程の展開プロセスについて、基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自己紹介　オリエンテーション	講義・GW	自分自身を知るアンケート
2	介護過程とは何か、介護過程のプロセスを理解できる。	講義・GW	個人ワークとグループワーク活用
3	介護過程の意義・目的を理解　できる。	講義・GW	テキスト1章1節の1を読んでくる。
4	介護過程の全体像を理解できる。	GW・講義	テキストP6～P9を読んでくる。
5	介護過程の展開を理解する。	講義・演習	演習（理解度チェック）
6	生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解できる。	講義	1章2節テキストP12～P17を読んでくる。
7	介護過程における事例検討の必要性について理解する	GW・講義	今までの授業範囲のテキスト・配布資料の復習をする。
8	アセスメントの思考の流れと視点を理解する。	GW・講義	2章1節を読んでくる。
9	介護過程の全体像を再確認し、展開において諸科目の知識の統合や関連を理解する	講義	2章2節を読んでくる。
10	アセスメント・計画の立案方法を理解できる。	講義・GW	相手の望む旅行計画作成
11	実際に計画の立案を行い、理解する。	GW・講義	GWで出された課題について取り組む
12	計画の実施を行い、理解できる。	GW	GWで出された課題について取り組む
13	評価の理解ができる。	GW・講義	GWで出された課題について取り組む
14	介護過程の全体像が理解できる。	講義	これまでの小テスト演習、配布資料の復習をする。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。
レポート・事前課題の提出期限を守ること。グループワークや講義に主体的に臨むこと。
配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

①レポート・課題（20%）②試験（60%） ③小テスト（20%）

■テキスト参考書など

介護過程「新介護福祉士養成講座」中央法規　適宜資料を配布

■備考

介護過程Ⅱ

講師：坂元 保彦

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。そして、支援又は介護を必要とする人を、一連の介護過程に基づき、専門的且つ個別的なケアを実践する基礎ができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護課程の全体像、アセスメントについて理解することができる	講義	
2	情報の収集について、理解を深めることができる	講義	
3	個々の情報収集について、ポイントを理解することができる	講義	情報収集シートを準備する
4	個々の情報収集について、ポイントを理解することができる	講義	情報収集シートを準備する
5	情報の分析について、理解することができる	講義	情報収集シートを準備する
6	介護計画立案についての基礎を理解することができる	講義	
7	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	配布プリントを準備する
8	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	配布プリントを準備する
9	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	配布プリントを準備する
10	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	配布プリントを準備する
11	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	実習で使用した情報収集シート、配布プリントを準備する
12	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	実習で使用した情報収集シート、配布プリントを準備する
13	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	実習で使用した情報収集シート、配布プリントを準備する
14	介護課程の実践的展開として、事例検討を行い、理解を深める	講義・GW	実習で使用した情報収集シート、配布プリントを準備する
15	終講試験及びまとめ	講義・筆記試験	

■受講上の注意

私語を慎み、居眠りをしないこと。グループワークの際は、積極的に討議すること。プリントや参考資料を忘れないこと。

■成績評価の方法

① 終講試験 50%　② 情報収集シートや配布プリントの提出 50%

■テキスト参考書など

介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規　配布プリント

■備考

介護過程Ⅲ

講師：石川 高司

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養う。
介護実習の事例をもとに、介護過程の展開の基礎的な知識・技術を応用し、実践的な展開ができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シートも持ってくる。
2	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
3	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
4	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
5	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
6	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
7	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
8	アセスメントの実際を展開できる。	講義・DVD	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
9	介護計画立案の実際を展開できる。	講義・GW	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
10	介護計画立案の実際を展開できる。	講義・GW	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
11	介護計画立案の実際を展開できる。	講義・GW	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
12	介護計画立案の実際を展開できる。	講義・GW	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
13	介護計画立案の実際を展開できる。	講義・GW	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シート、授業で配布したプリントを持ってくる。
14	評価の実際を展開できる。	講義・GW	13回までの資料、第2段階実習の記録物、GWで使用した資料・シートを持ってくる。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。レポートの提出期限を守ること。グループワークや講義に主体的に臨むこと。配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　② 課題　30%

■テキスト参考書など

介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規　適宜資料を配布

■備考

介護過程Ⅳ

講師: 福永　宏子

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の展開を学習することで、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことができる。
支援または介護を必要とする人を、チームの一員として一連の介護過程に基づき、専門的かつ個別的なケアを実践できる基礎ができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ケアマネジメントの理解① 介護過程とケアマネジメントの関係を理解する事ができる	講義・GW	小テストの実施
2	ケアマネジメントの理解① 介護過程とケアマネジメントの関係を理解する事ができる	講義・GW	小テストの実施
3	ケアマネジメントの理解② 高齢者と障害者のケアマネジメントのしくみを理解する事ができる。	講義・GW	小テスト 事前課題をまとめておく
4	ケアマネジメントの理解② 高齢者と障害者のケアマネジメントのしくみを理解する事ができる。		小テスト 事前課題をまとめておく
5	心身状況に応じた実践的展開 ICFの視点から展開を考え生活の全体を理解する事ができる。		事前配布事例を読み込み、利用者像を理解しておく。 小テストの実施
6	心身状況に応じた実践的展開 ICFの視点から展開を考え生活の全体を理解する事ができる。	講義・GW	事前配布事例を読み込み、利用者像を理解しておく。 小テストの実施
7	介護過程とチームアプローチ ケアマネジメントの展開と他職種協働（サービス担当者会議の開催）を体験する。	演習	役割に応じた職種の理解をしておく。
8	介護過程とチームアプローチ ケアマネジメントの展開と他職種協働（サービス担当者会議の開催）を体験する。	演習	役割に応じた職種の理解をしておく。
9	介護過程の展開（アセスメントと課題の抽出、統合化） 介護専門職としての実践的展開ができる。	演習	小テストの実施 これまで学んだ介護過程を復習しておく。
10	介護過程の展開（アセスメントと課題の抽出、統合化） 介護専門職としての実践的展開ができる。	演習	小テストの実施 これまで学んだ介護過程を復習しておく。
11	介護過程の展開 目標の設定と介護計画の作成ができる。	演習	
12	介護過程の展開 目標の設定と介護計画の作成ができる。	演習	
13	介護過程の展開 評価の方法および視点を理解することができる。	演習	小テストの実施
14	介護過程の展開 評価の方法および視点を理解することができる。	演習	小テストの実施
15	終講試験およびまとめ		

■受講上の注意

配布資料など、きちんと整理しておくこと。

■成績評価の方法

① 授業参加態度（演習） 20%　② 小テスト 10%　③ 課題 10%　④ 終講試験 60%

■テキスト参考書など

介護過程 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規
適宜配布資料

■備考

介護過程Ⅴ

講師: 岩重　正一

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。
介護過程の理論と介護実習の体験を基に，介護研究に取り組む。
[授業終了時の達成課題]
①介護研究の目的と意義を踏まえ，研究テーマの設定や研究仮説を立てることができる。
②介護研究における研究デザインについて理解する。
③介護研究における量的研究と質的研究について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護研究の目的と意義	講義・GW	
2	研究テーマの作成①	講義・GW	研究関心の書き出しを行う。
3	研究テーマの作成②	講義・GW	研究関心の整理を行う。
4	研究テーマの作成③	講義・GW	資料や先行研究の収集を行う。
5	研究における仮説の構成	講義・GW	
6	研究計画書の作成	講義・GW	
7	介護研究の研究デザイン	講義・GW	
8	介護研究の倫理	講義・GW	
9	量的研究の概要とデータ収集①	講義・GW	基本手順について解説する。
10	量的研究の概要とデータ収集②	講義・GW	標本抽出法について解説する。
11	量的研究の概要とデータ収集③	講義・GW	研究法を設定する。
12	質的研究の概要とデータ収集①	講義・GW	基本手順について解説する。
13	質的研究の概要とデータ収集②	講義・GW	観察・記録の仕方について解説する。
14	質的研究の概要とデータ収集③	講義・GW	インタビューに行い方について説明する。
15	データ収集作業実施準備・確認	講義・GW	

■受講上の注意

講義前に参考文献を熟読すること

■成績評価の方法

①プレゼンの内容及び発表　100%

■テキスト参考書など

介護福祉士・介護福祉学生のためのよくわかる介護福祉研究入門　保育社
介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

介護総合演習A

講師：堀 靖洋、坂元 保彦、清水 克子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。
・特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、通所介護、短期入所生活介護に関する概要を理解することができ、実習を振り返り、自己の課題を明確化し、授業や実習での学びを更に深め、実践力として身につけることができる。
・地域密着型サービスである小規模多機能型居宅介護の特徴と実習で学ぶべきポイントを理解する。
・通所介護・通所リハビリテーションの特徴と実習で学ぶべきポイントを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の概要等を理解することができる	講義	テキスト第7章Ⅳ、配布プリントの熟読
2	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）における介護過程や多職種との連携等を理解することができる	講義	テキスト第7章Ⅳ、配布プリントの熟読
3	通所介護の概要や目的、介護内容を理解することができる	講義	テキスト第5章Ⅲ、配布プリントの熟読
4	短期入所生活介護も概要や目的、介護内容を理解することができる	講義	テキスト第5章Ⅳ、配布プリントの熟読
5	まとめ「特別養護老人ホーム・通所介護」、実習の意義、目的を確認する	講義	特別養護老人ホームと通所介護の復習をしてくる
6	介護実習の意義・目的を理解でき介護実習の種類を学ぶことができる	講義	介護実習についての教科書の(P1～12・P16～17)予習を行うこと
7	地域密着型サービスである小規模多機能型居宅介護と認知症グループホームの特徴の学ぶべきポイントを理解できる	講義・GW DVD	小規模多機能型居宅介護と認知症グループホームの特徴をインターネット等で調べて提出
8	通所介護・通所リハビリテーションの特徴と学ぶべきポイントを理解できる	GW・DVD	通所介護・通所リハビリテーションの特徴をインターネット等で調べて提出
9	障害者支援施設の特徴と実習での学ぶべきポイントを理解できる	GW・DVD	障害者支援施設の種類と特徴をゆうあいガイドブックやインターネット等で調べて提出
10	まとめ「地域密着型サービス・障害者支援施設」	講義	地域密着型サービス・障害者支援施設の復習をしてくる
11	介護老人保健施設(老健)や認知症対応型生活介護(GH)の概要や利用者の特徴を学ぶ	講義	
12	老健やGHでの実習の意義や目的を学び、介護実習の実践に繋げる	講義・GW	前講義の復習
13	実習時、求められる知識や技術、態度、倫理観について学ぶ	講義・GW	前講義の復習
14	個別ケアの必要性について学び、実践力を身に付ける	講義・GW	前講義の復習
15	科目のまとめ「介護老人保健施設・グループホーム」	講義・GW	前講義の復習

■受講上の注意

私語はしないこと。事前準備・講義の予習をしてくること。提出は期限までに出すこと。忘れ物はないようにし、主体的に講義に臨むこと。GWは積極的に参加し、他者の意見を評価、批判しないこと。

■成績評価の方法

①終講試験80%　②レポート課題20%

■テキスト参考書など

1～5：介護総合演習　メヂカルフレンド社　6～10：介護総合演習　メヂカルフレンド社　ゆうあいガイドブック(鹿児島市内の市役所で無料配布しています)
11～15：介護総合演習　メヂカルフレンド社

■備考

終講試験は授業終了後、別日に設ける。

介護総合演習B

講師:徳田 春光

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の施設等のオリエンテーション、実習後の実習報告または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けなど、実習に必要な知識や技術等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。本講義については、実習と組み合わせての学習とする。

「授業修了時の達成課題」

・介護実習の意義を理解することができる
・基本的な介護実習記録の方法を理解し、記載することができる。
・関連科目で学んだ知識や技術を実習に活用することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護総合演習の位置づけとその目的が理解できる。	講義	テキスト「介護実習および介護総合演習の構造」を読んでくる
2	介護実習の意義と目的を理解すことができる	講義	テキスト「介護実習の意義と目的」を読んでくる
3	第1段階実習の具体的な内容を把握し実習要項で理解できる	講義	実習要項を事前に読んでくる （第1段階実習）
4	実習の記録の重要性を理解できる。	講義・演習	テキスト「介護実習についての準備・実習記録」を読んでくる ・実習要項持参すること
5	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	講義・演習	・テキスト「介護実習についての準備・実習目標の設定」を読んでくる ・実習要項持参すること
6	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる② （日々の実習記録）	講義・演習	
7	事前訪問の意義と目的を理解することができる。	講義	実習要項の「事前訪問の意義と目的」読んでくること
8	利用者・職員とのコミュニケーションと最終カンファレンスの仕方を理解することができる	講義・演習	・テキスト「実習生としての基本事項」を読んでくること ・実習要項を持参すること
9	実習報告会の意義と目的を理解することができる。	講義	テキスト「目標の達成状況への課題」を読んでくる
10	学内評価 （第1段階実習）	発表	・報告資料を各自準備しておく ・レポート提出
11	第2段階実習の具体的な内容を把握し実習要項で理解できる	講義	実習要項を事前に読んでくる （第2段階実習）
12	ICFに基づいたアセスメントが理解できる。	講義	
13	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	講義・演習	・テキスト「介護実習についての準備・実習目標の設定」を読んでくる ・実習要項持参すること
14	学内評価 （2段階実習報告会）	発表	報告資料を各自準備しておく
15	学内評価 （2段階実習報告会）	発表	・報告資料を各自準備しておく ・レポート提出

■受講上の注意

テキスト・実習要項を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。忘れ物のないようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

① 学内評価（第1段階・第2段階報告会発表）80%　② レポート20%

■テキスト参考書など

介護総合演習　メヂカルフレンド社

■備考

資料プリントは適宜配布する

介護総合演習C

講師：徳田 春光

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」
　実習の教育効果を上げるため、介護実習前の施設等のオリエンテーション、実習後の実習報告または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けなど、実習に必要な知識や技術等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。本講義については、実習と組み合わせての学習とする。
「授業修了時の達成課題」
・介護実習の意義を理解することができる
・高齢者居宅サービス・障害者支援施設について理解できる。
・福祉レクリエーションの意義と目的を理解し、計画を立案できる。
・関連科目で学んだ知識や技術を実習に活用することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	第2段階実習での振り返りを行い、課題を明確にすることができる① （実習記録）	講義・演習	第1段階・第2段階の記録を持参すること
2	第2段階実習での振り返りを行い、課題を明確にすることができる② （アセスメント）	講義・演習	第2段階で作成したアセスメントシートを持参すること
3	第3段階実習の具体的な内容を把握し実習要項で理解できる	講義	実習要項を事前に読んでくる （第3段階実習）
4	高齢者居宅サービスについて理解する（制度・生活面）	講義	通所介護・小規模多機能居宅介護・認知症対応協同生活介護を復習してくること
5	障害者支援施設について理解する（制度・生活面）	講義	障害者支援施設を復習してくること
6	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	講義・演習	実習先について調べてくること
7	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	演習	実習先について調べてくること
8	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる② （日々の実習記録）	講義・演習	・テキスト「介護実習についての準備・実習目標の設定」を読んでくる ・実習要項持参すること
9	事前訪問の意義と目的を理解することができる。	講義	・実習要項の事前訪問を読んでくる
10	福祉レクリエーション意義と目的を理解すことができる。	講義・演習	レクリエーション援助技術のテキストを持参すこと
11	福祉レクリエーション計画を作成すことができる。	演習	レクリエーション内容を考えてくること
12	実習報告会の方法を理解することができる	講義	テキスト「目標の達成状況への課題」を読んでくる
13	学内評価 高齢者居宅サービス （3段階実習報告会）	発表	・報告資料を各自準備しておく ・レポート提出
14	学内評価 障害者支援施設 （3段階実習報告会）	発表	報告資料を各自準備しておく
15	学内評価 障害者支援施設 （3段階実習報告会）	発表	・報告資料を各自準備しておく ・レポート提出

■受講上の注意

・テキスト・実習要項を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。
・忘れ物のないようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

① 内評価（第3段階実習報告会発表） 80%
② ポート20%

■テキスト参考書など

介護総合演習　メヂカルフレンド社

■備考

資料プリントは適宜配布する

介護総合演習D

講師：徳田 春光

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の施設等のオリエンテーション、実習後の実習報告または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。本講義については、実習と組み合わせての学習とする。

「授業修了時の達成課題」

・介護を必要とする人の生活不自由さ、科学的にアセスメントし分析・考案し、介護計画の作成および実施・評価が理解でき、介護過程の展開を理解できる。
・実践を通して、各領域で修得した知識と技術も統合を図ることができる。
・チームアプローチとしての介護福祉士の役割を理解することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	第3段階実習での振り返りを行い、課題を明確にすることができる① （実習記録）	演習	第3段階の記録を持参すること
2	第3段階実習での振り返りを行い、課題を明確にすることができる② （アセスメント）	演習	第3段階作成したアセスメントシートを持参すること
3	訪問介護について理解する	講義	テキスト「訪問介護」を読んできること
4	訪問介護 実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	講義・演習	・実習先について調べてくること ・実習要項を持参すること
5	第3段階実習の具体的な内容を把握し実習要項で理解できる	講義	実習要項「第3段階実習」を読んでくること
6	多職種連携について理解することができる。	講義	テキストP95～P100を読んでくること
7	高齢者居宅介護について理解する（制度・生活面）	講義	テキスト「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設」を読んでくる
8	介護過程展開を理解するとができる① （情報の分析）	演習	教科書P64～P80を読んでくること
9	介護過程展開を理解するとができる② （介護計画の立案）	演習	教科書P81～P84を読んでくること
10	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	講義・演習	・実習先について調べてくること ・実習要項を持参すること
11	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	演習	・実習先について調べてくること ・実習要項を持参すること
12	最終カンファレンスの意義と目的を理解できる	講義	・テキストP 57～P62を読んでくること ・実習要項を持参すること
13	第4段階実習で実施した個別援助計画を発表することができる （発表作成と方法）	講義	第4段階実習で作成した個別援助計画の用紙を持参すること
14	第4段階実習で実施した個別援助計画を発表と討論①	発表	発表後レポートを提出
15	第4段階実習で実施した個別援助計画を発表と討論②	発表	発表後レポートを提出

■受講上の注意

・テキスト・実習要項を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。
・忘れ物のないようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

①学内評価（第3段階実習報告会発表）　80%
②レポート　20%

■テキスト参考書など

介護総合演習　メヂカルフレンド社

■備考

資料プリントは適宜配布する

介護実習Ⅰ

講師：実習指導者、専任教員

単位数：3単位　時間数：135時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

① 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
② 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して具体的な介護ザービスの提供の基本となる実践力を習得する。

■科目内容

■学習のねらい

① 人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。
② 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他の職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

■方法

第1段階…4日間
第2段階…14日間

■学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法

①実習先評価　60%
②学内評価　　40%

■テキスト参考書など

介護総合演習　メヂカルフレンド社

■備考

介護実習Ⅱ

講師:実習指導者、専任教員

単位数:7単位　時間数:315時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

① 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
② 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して具体的な介護ザービスの提供の基本となる実践力を習得する。

■科目内容

■学習のねらい

① 人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。
② 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他の職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

■方法

第3段階…16日間
第4段階…26日間

■学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法

①実習先評価　60%
②学内評価　　40%

■テキスト参考書など

介護総合演習メヂカルフレンド社

■備考

実習要綱参照

発達と老化の理解Ⅰ

講師:三原 恵

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

成長・発達の考え方や成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識を学び、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。また、成長・発達の観点から老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	発達の概念を理解する 生涯発達の段階(受精～出生)	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
2	生涯発達の段階(乳児期～老年期)を理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
3	成長・発達の原則・法則を理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
4	成長・発達に影響する要因を理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
5	発達理論とは何か理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。小テスト
6	発達段階と発達課題について理解する(ピアジェ・フロイト)	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
7	発達段階と発達課題について理解する(エリクソン)	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
8	発達段階と発達課題について理解する(ハヴィガースト)	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
9	身体的機能の成長と発達について理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。小テスト
10	発達に伴う特徴的な疾病や障害について理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
11	社会的機能の発達について理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
12	老年期の定義と老化とは何か理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
13	老年期の発達課題について理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
14	老年期をめぐる今日的課題について理解する	講義	指示された内容について、事前学習や事後学習を行う。分からない時は、積極的に質問をすること。
15	終講試験およびまとめ	講義 筆記試験	講義全体を通してのまとめ。理解が不十分な点は、補足をするため、復習の中で自己覚知を行うこと。

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　② 小テスト　30%

■テキスト参考書など

発達と老化の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規□ 必要に応じて配布資料を使用する

■備考

小テストは、進度に伴い、複数回実施予定。

発達と老化の理解Ⅱ

講師: 原口　悦江

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
高齢者の多い疾患や老化に伴う機能低下が日常生活に及ぼす影響について理解し，生活支援技術の根拠となる知識の習得をはかる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高齢者の症状・疾患の特徴を学ぶ	講義	施設実習等を通して、疾患と症状、身体的特徴を述べる
2	高齢者に多くみられる症状、訴えとその留意点を関係付ける	講義	加齢は、機能的、生理学的に高齢者に多くの変化をもたらす症状や訴えがどのような疾患から起こるのか
3	高齢者に多い病気、その原因と特徴を学ぶ	講義	小テスト実施① 病気を抱える高齢者の生活上の留意点に気付ける
4	生活習慣病（脳血管疾患、がん、心疾患）の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	生活習慣病が発生するには日々の暮らしが関係している
5	その他の生活習慣病（高血圧）の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	小テスト実施②
6	その他生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、通風）の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	
7	その他生活習慣病（慢性腎不全、慢性肝疾患）の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	小テスト実施③
8	骨関節系の病気の病状を理解し、要望や生活上の留意点も学ぶ	講義	加齢や骨粗鬆症などで骨がもろくなる。転倒、骨折により寝たきりになる場合もある
9	歯、口腔の病気、目の病気、耳の病気、皮膚の病気等の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	口腔ケアは虫歯や歯周疾患ばかりではなく、誤嚥性肺炎予防にもなる
10	呼吸器系の病気、循環器系の病気の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	小テスト実施④息切れ、息苦しさは心臓と肺の両方に関連した症状,心不全と呼吸不全の違い
11	消化器系の病気、泌尿器系の病気の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	高齢者に多い尿失禁タイプと予防対応策
12	脳神経系の病気、精神の病気の病状を理解し、予防や生活上の留意点も学ぶ	講義	うつ病と認知症の違いとその対応について
13	介護保険の特定疾病（16）、介護施設で起こりやすい感染症を学ぶ	講義	小テスト実施⑤施設で起こりやすい、インフルエンザ、感染性胃腸炎（ノロウイルス）など発生予防に努める
14	保健医療機関との連携について学ぶ	講義	介護福祉士として他職種との連携及び役割がわかる
15	終講試験及びまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

聞きなれない専門用語が出てくるので、予習して、わからないことは質問する 小テストは復習すること

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②小テスト　20%

■テキスト参考書など

発達と老化の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

認知症の理解Ⅰ

講師:長友 医継

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	日本における認知症ケアの歴史、現状、本来の課題を知る	講義・DVD	テキストを予習してくる
2	認知症の人の行動、心理の理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
3	脳のしくみと働きを知る	講義・DVD	テキストを予習してくる
4	認知症の原因疾患を理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
5	認知症の診断と治療を理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
6	認知症の予防を理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
7	認知症の人の心理的理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
8	まとめ「第1章・第2章」	講義	テキスト第1章・第2章を復習してくる
9	認知症の人の体験の理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
10	本人本位の視点を確かなものにする	講義・DVD	テキストを予習してくる
11	認知症の人の生活理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
12	認知症の人の生活している環境の力を理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
13	認知症の人の生活を続けることについて理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
14	若年性認知症の理解	講義・DVD	テキストを予習してくる
15	まとめと終講試験	筆記試験	学んだことを整理する

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 終講試験 100%

■テキスト参考書など

認知症の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

認知症の理解Ⅱ

講師: 田上　昭観

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

認知症について学び、認知症の人の心理や行動を理解する
認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	若年性認知症の人の生活が理解できる。	講義・DVD	テキストを予習してくる
2	認知症の人への関り方の基本を学ぶ	講義・DVD	テキストを予習してくる
3	認知症への気づきを高める	講義・DVD	テキストを予習してくる
4	認知症の人の介護過程を学ぶ	講義・DVD	テキストを予習してくる
5	認知症の進行に応じた介護を学ぶ	講義・DVD	テキストを予習してくる
6	人が生きることを支えるということは何かを理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
7	まとめ「第5章」	講義	第5章を復習してくる
8	地域におけるサポート体制について理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
9	チームアプローチについて理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
10	家族へのレスパイトケアを学ぶ	講義・DVD	テキストを予習してくる
11	家族へのエンパワメントを学ぶ	講義・DVD	テキストを予習してくる
12	家族会と介護教室を理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
13	認知症対策と介護保険制度を理解する	講義・DVD	テキストを予習してくる
14	その他の施策について学ぶ	講義・DVD	テキストを予習してくる
15	終講試験　まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

①終講試験100%

■テキスト参考書など

認知症の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

障害の理解Ⅰ

講師:福永 宏子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し，本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する事ができる。さらに、障害のある人の自立支援に関する制度・関連職種等の機能を理解することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	障害の基本的理解①障害の概念について理解することができる	講義・GW	テキストを予習してくる
2	障害の基本的理解②障害の概念について理解することができる。	講義・GW	テキストを予習してくる
3	障害福祉の基本的理念①障害の思想や理念について説明できる。	講義・GW	テキストを予習してくる
4	障害福祉の基本的理念② リハビリ・社会に関連する考え方が理解できる。	講義	テキストを予習してくる
5	障害福祉の基本的理念③福祉に関する思想や理念について説明できる。	講義	小テスト（4，5回）
6	障害者の生活の実際を知ることができる	ビデオ視聴	レポート提出
7	障害福祉に関連する制度①障害者サービスについて理解できる	講義・GW	テキストを予習してくる
8	障害福祉に関連する制度②障害者の権利について理解できる	講義・GW	テキストを予習してくる
9	障害福祉に関連する制度③サービスのサードの違いを理解できる	講義・GW	テキストを予習してくる
10	障害のある人の生活について理解できる	ビデオ視聴 GW	小テストの実施（7回～9回）
11	連携と協働①地域のサポート体制を理解することができる。	講義・GW	テキストを予習してくる
12	連携と協働②チームアプローチについて理解できる	講義・GW	テキストを予習してくる
13	家族への支援①家族への支援について理解できる	講義 ロールプレイ	テキストを予習してくる
14	家族への支援②家族への支援について理解できる	講義・GW	テキストを予習してくる
15	終講試験・まとめ	筆記試験	テキストを復習してくる

■受講上の注意

基本的内容について理解を深めるために、事前の予習及び課題に取り組むこと。

■成績評価の方法

①終講試験　70%　②小テスト　20%　③課題　10%

■テキスト参考書など

障害の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

障害の理解Ⅱ

講師: 中江 ミヤ子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	視覚障害の特性を知りどう接し，どうサポートすればよいか述べることができる	講義・GW	日常生活の中で視覚障害者が使用できるよう工夫されているものを見つける 携帯用点字器（あれば使用）
2	聴覚・言語障害の方がどのようなことに困難を感じているか理解し，それをどのような方法でサポートできるかを説明することができる	講義・DVD	ゆうあいガイドブック使用
3	高次脳機能障害の原因，症状，どのようなリハビリテーションを行っているかを知ることができる	講義	小テストの実施
4	知的障害のある人の生活支援について具体的に考え自分の意見を述べることができる	講義・GW	GWの工夫
5	代表的な精神疾患の特徴と行われている治療を知る。家族を含めた対応や社会参加について理解することができる	講義	小テストの実施
6	心臓の機能を知り障害に応じた生活上の留意点について理解することができる	講義	ゆうあいガイドブック使用 小テストの実施
7	腎臓機能障害の人の生活上の留意点について理解することができる	講義	ゆうあいガイドブック使用 小テストの実施
8	呼吸機能障害の人の生活上の留意点について理解し予測することを述べることができる	講義	小テストの実施
9	膀胱・直腸機能について知り，それが障害されることの生活上の留意点について列挙することができる	講義	ゆうあいガイドブック使用 パウチの準備
10	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について原因を正確に知ることと心理的負担について理解することができる	講義	小テストの実施
11	肝臓の機能を知り肝機能障害と感染についてわかる	講義	小テストの実施
12	難病の種類や特徴について説明を受け，医療との連携について課題を見出すことができる	講義	難病ガイドブック使用（あれば使用） 障害者用食器使用
13	認知症の人の歴史を知り基本的な状態を理解することができる。中核症状の内容を答えることができる	講義	小テストの実施
14	認知症の人の家族の受け入れ段階について理解することができる	講義・GW	
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

障害のある人が生活しやすいよう工夫されていることや物，場所がたくさんあります。日常生活の中でそれを見つけてみんなで理解しあいましょう

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　② 小テスト　20%　③ 授業への参加態度　10%

■テキスト参考書など

障害の理解 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規　ゆうあいガイドブック　難病ガイドブック（可能なら）作成した資料を配布

■備考

こころとからだのしくみA

講師：村田 長芳

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	身体の成り立ちの理解が出来る	講義・DVD	
2	恒常性、自律神経系について理解が出来る	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
3	生命徴候、呼吸と循環のしくみが理解出来る	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
4	ストレス、防御系、再生、修復のしくみが理解できる ヒトの一生のリズムが理解できる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
5	神経系各部の構造と機能が理解できる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
6	こころの理解	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
7	人間のこころと行動のしくみが理解できる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
8	人間の行動、社会的人間としてのこころのしくみが理解できる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
9	身支度とこころと身体のしくみの理解ができる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
10	身体の機能低下、障害とそれが身支度の及ぼす影響が理解できる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
11	生活場面におけるこころとからだの変化を見つけ、それに対応しうる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
12	運動に関与する骨、筋、関節などのしくみが理解でくる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
13	活動、移動に関連したこころとからだのしくみが理解できる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
14	機能的な、障害が活動や、移動の及ぼす影響が理解でき、その変化を見つけ出し、対応できるようになる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義は集中力が必要です。成人の集中力の持続時間は30分と云われています。集中力を涵養しましょう。自分の義務（たとえばクイズ）はきちんと果たしましょう。

■成績評価の方法

①終講試験　70%　②学習態度　20%　③クイズの成績　10%

■テキスト参考書など

こころとからだのしくみ　メヂカルフレンド社　解剖学トレーニングノート　医学教育出版社

■備考

配布資料、DVDのスニッピング資料は適宜配布する

こころとからだのしくみB

講師：村田 長芳

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	こころとからだの変化を見つけて、医療職と連携した行動が出来るようになる	講義・DVD	
2	必要栄養量、五大栄養素などの基礎知識を獲得する　介護者の食事について適正か否かが判定できるようになる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
3	食事とこころとからだのしくみについて消化、吸収、誤嚥、脱水を中心に学ぶ、応急的対応ができるようになる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
4	消化不良、食欲不振、嚥下障害、脱水に対する知識を獲得し、症状を持つ人の介護ができる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
5	入浴、清潔とこころとからだの関係の基礎知識を獲得する	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
6	入浴、身体の汚れとこころとからだの関係について基礎知識を得る。入浴の介助の心得を理解し、介助時それに準拠して行動ができる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
7	生活場面における変化を見抜ける眼力を養う　実際面での対処の仕方を学ぶ	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
8	排泄系のしくみを男女差の違いを中心に理解する　男女のしくみの違いと疾病の関係を理解する	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
9	排便とそれに関わる各種疾患の基礎知識を獲得する	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
10	排尿とそれに関わる各種疾患の基礎知識を獲得する	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
11	排泄機能低下に関連したこころとからだについて学ぶ、医療者と一緒に機能低下者を介護する方法を学ぶ	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
12	睡眠に関連したこころとからだの基礎知識を学ぶ	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
13	睡眠、ストレス、生活習慣などとこころとからだの関係について学ぶ	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
14	睡眠障害が理解でき、睡眠障害を持つ人を医療者と一緒に生活指導することができるようになる	講義・DVD	授業開始時、前回の授業の要点を理解しているかどうかの確認のためクイズを行う
15	終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

講義は集中力が必要です。成人の集中力の持続時間は30分といわれています。集中力を涵養しましょう。自分の義務（たとえばクイズ）はきちんと果たしましょう。

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　② 学習態度　20%　③ クイズの成績　10%

■テキスト参考書など

こころとからだのしくみ　メヂカルフレンド社　　解剖学トレーニングノート　医学教育出版社

■備考

配布資料、DVDのスニッピング資料は適宜配布する

こころとからだのしくみC

講師: 池田　加奈子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	手鏡を持ってくる
2	機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響を理解する	講義	感覚器の機能の低下について調べておく
3	身じたくに関連した変化の気づきと医療職との連携を理解する	講義	テキストを予習しておく
4	移動に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	テキストを予習しておく
5	機能の低下・障害が移動に及ぼす影響を理解する	講義	運動機能の低下について調べておく
6	移動に関連した変化の気づきと医療職との連携を理解する	講義	テキストを予習しておく
7	振り返り・まとめ	講義	テキストを復習しておく
8	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	1日に食べたものを記録し持参する
9	機能の低下・障害が食事に及ぼす影響を理解する	講義	消化器官について予習しておく
10	食事に関連した変化の気づきと対応・医療職との連携を理解する	講義	嚥下の仕組みについて復習しておく
11	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	皮膚の構造を調べておく
12	機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響を理解する	講義	入浴中の事故を調べておく
13	入浴・清潔保持に関連した変化の気づきと医療職との連携を理解する	講義	入浴における体の変化を調べておく
14	振り返り・まとめ	講義	テキストを復習しておく
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストを復習しておく

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。

■成績評価の方法

①　終講試験　80%　②　レポート　20%

■テキスト参考書など

こころとからだのしくみ　メヂカルフレンド社

■備考

こころとからだのしくみD

講師: 永井　公身

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。
排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみと、機能の低下・障害が及ぼす影響ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解できる。
生活支援技術と関連づけ、介護サービスの根拠につなげることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	正常な排尿・排便を学び、述べることができる	講義・GW	テキスト第7章Ⅰを読んでくる
2	排泄のしくみが説明できる	講義・GW	小テストを行い確認
3	機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響が理解できる	講義・GW	テキスト第7章Ⅱ・Ⅲを読んでくる 事例を通して話し合う 介護の実際をシュミレーションする
4	変化の気づきと医療職との連携を理解できる	講義・GW	テキスト第7章Ⅳを読んでくる 正常と異常の違いを共有し予測した支援を話し合える・小テストを行い確認する
5	睡眠に関連した基礎知識が理解できる	講義・演習	テキスト第8章Ⅰ・Ⅱを読んでくる 動きやすい服装 昼寝を体験する
6	睡眠のしくみが理解できる	講義	薬剤についても補足
7	機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響を理解し事例を通し関係付けることができる	講義・DVD	テキスト第8章Ⅲ・Ⅳを読んでくる 睡眠環境について考える
8	要介護者の睡眠が適切か否かを観察し報告できる	GW	演習・小テスト
9	「死」に対する捉え方の意味を述べることができる	講義	テキスト第9章Ⅰを読んでくる 死生観を知る為、レポート課題
10	終末期から死亡時のからだの変化を理解できる	講義・GW	テキスト第9章Ⅱ・Ⅲを読んでくる 事例を通して自己の死生観を振り返る
11	「死」に対する本人・家族のこころの段階を理解できる	講義・GW	死に対する向き合い方など事例を通して考える・介護職としての看取りの考え方を、グループで共有する
12	医療職と連携を図る方法を理解できる	講義	テキスト第9章Ⅳを読んでくる 小テスト
13	排泄について復習	GW	支援と関連付けシュミレーションし発表できる
14	睡眠について復習	GW	利用者と関連付け睡眠環境を机上で考え発表できる
15	終講試験	筆記試験	終講試験およびまとめ

■受講上の注意

テキストを読み予習を行う。対話式の講義を通して、共に学習する態度を身につける。

■成績評価の方法

①終講試験70%　②授業中のレポート20%　③小テスト10%

■テキスト参考書など

こころとからだのしくみ　メヂカルフレンド社　睡眠と健康（放送大学教材）看取りガイドライン　排泄のしくみ（梶西先生資料）

■備考

資料プリント、小テストは適宜配布する。

医療的ケアⅠ

講師: 池田　加奈子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に喀痰吸引・経管栄養を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	個人の尊重と自立、医療倫理、利用者や家族の気持ちの理解をする	講義	テキストの人間と社会について読んでおく
2	保健医療に関する制度、医療行為に関する法律 チーム医療と介護職員との連携を理解する	講義	保健医療に関する制度について調べておく
3	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施を理解する	講義	テキストを読んでおく
4	救急蘇生を理解する	講義・演習	テキスト動画にて救急蘇生の手技を事前に見ておく 実習着持参
5	感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔・消毒法を理解する	講義	学校の感染予防について調べておく
6	滅菌と消毒を理解する	講義	滅菌と消毒について調べておく
7	身体・精神の健康、急変状態について理解する	講義	急変状態についてテキストを読んでおく
8	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）を理解する	講義	バイタルサインとは何か調べておく
9	呼吸のしくみとはたらきを理解する	講義	呼吸のしくみについてテキストを読んでおく
10	いつもと違う呼吸の状態、喀痰吸引とはを理解する	講義	呼吸のしくみについてテキストを読んでおく
11	人工呼吸器と吸引（1）を理解する	講義	人工呼吸器についてテキストを読んでおく
12	人工呼吸器と吸引（2）を理解する	講義	人工呼吸器についてテキストを読んでおく
13	子どもの吸引吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	講義	テキストを読んでおく
14	呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）を理解する	講義	テキストを読んでおく
15	終講試験・まとめ	筆記試験	テキストを読んで復習しておく

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。 レポートの提出期限を守ること。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② レポート　20%

■テキスト参考書など

医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

医療的ケアⅡ

講師: 池田　加奈子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に喀痰吸引を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認を理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
2	喀痰吸引時の急変・事故発生時の対応と事前対策を理解する（1）	講義	テキストを読んで予習しておく
3	喀痰吸引時の急変・事故発生時の対応と事前対策を理解する（2）	講義	テキストを読んで予習しておく
4	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持を理解する	講義	喀痰吸引で用いる器具を調べておく
5	喀痰吸引の技術と留意点を理解する（1）	講義・GW	テキスト動画にて口腔内喀痰吸引の手技を事前に見ておく
6	喀痰吸引の技術と留意点を理解する（2）	講義・GW	テキスト動画にて鼻腔内喀痰吸引の手技を事前に見ておく
7	喀痰吸引の技術と留意点を理解する（3）	講義・演習	テキスト動画にて口腔・鼻腔喀痰吸引の手技を事前に見ておく
8	喀痰吸引の技術と留意点を理解する（4）	講義・演習	テキスト動画にて口腔・鼻腔喀痰吸引の手技を事前に見ておく
9	喀痰吸引の技術と留意点を理解する（5）	講義・演習	テキスト動画にて気管カニューレ内部喀痰吸引の手技を事前に見ておく
10	喀痰吸引にともなうケアを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
11	喀痰吸引時の報告および記録の仕方を理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
12	口腔内喀痰吸引の実施手順を理解する	講義・演習	テキスト動画にて口腔内喀痰吸引の手技を事前に見ておく 実習着持参
13	鼻腔内喀痰吸引の実施手順を理解する	講義・演習	テキスト動画にて鼻腔内喀痰吸引の手技を事前に見ておく 実習着持参
14	気管カニューレ内部吸引の実施手順を理解する	講義・演習	テキスト動画にて気管カニューレ内部喀痰吸引の手技を事前に見ておく 実習着持参
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストを読んで復習しておく

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。レポートの提出期限を守ること。

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②レポート　20%

■テキスト参考書など

医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

医療的ケアⅢ

講師: 池田　加奈子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に経管栄養を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	消化器系のしくみとはたらきを理解する	講義	消化器のしくみについてテキストを読んでおく
2	消化・吸収とよくある消化器の症状を理解する	講義	消化器の症状についてテキストを読んでおく
3	経管栄養剤の種類について理解する	講義	経管栄養剤の種類についてテキストを読んでおく
4	経管栄養実施上の留意点について理解する	講義	経管栄養実施上の留意点についてテキストを読んでおく
5	子どもの経管栄養について理解する 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応について理解する	講義	子どもの経管栄養について、テキストを読んでおく
6	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について理解する	講義	経管栄養により生じる危険性についてテキストを読んでおく
7	急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する	講義	経管栄養時の急変にはどのようなことがあるか、挙げておく
8	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持について理解する	講義	経管栄養で用いる器具・機材を挙げておく
9	経管栄養の技術と留意点について理解する	講義	テキスト動画にて経管栄養の手技を事前に見ておく
10	経管栄養の技術と留意点について理解する	講義	テキスト動画にて経管栄養の手技を事前に見ておく
11	経管栄養に必要なケアについて理解する	講義	
12	経管栄養時の報告および記録について理解する	講義	
13	胃ろうによる経管栄養の手順を理解する	講義	テキスト動画にて胃ろうによる経管栄養の手技を事前に見ておく
14	経鼻経管栄養の手順を理解する	講義	テキスト動画にて経鼻経管栄養の手技を事前に見ておく
15	終講試験・まとめ	講義 筆記試験	

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。レポートの提出期限を守ること。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② レポート　20%

■テキスト参考書など

医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

医療的ケアⅣ

講師: 池田加奈子

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に喀痰吸引を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	口腔内喀痰吸引の手順を理解し実施できる	演習	テキストに付属のDVDにて手技を事前に見ておく
2	鼻腔内喀痰吸引の手順を理解し実施できる	演習	テキストに付属のDVDにて手技を事前に見ておく
3	気管カニューレ内部吸引の実施手順を理解し実施できる	演習	テキストに付属のDVDにて手技を事前に見ておく
4	口腔内喀痰吸引の実技試験（1）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
5	口腔内喀痰吸引の実技試験（2）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
6	口腔内喀痰吸引の実技試験（3）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
7	鼻腔内喀痰吸引の実技試験（1）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
8	鼻腔内喀痰吸引の実技試験（2）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
9	鼻腔内喀痰吸引の実技試験（3）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
10	気管カニューレ内部喀痰吸引の実技試験（1）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
11	気管カニューレ内部喀痰吸引の実技試験（2）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
12	気管カニューレ内部喀痰吸引の実技試験（3）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
13	気管カニューレ内部喀痰吸引の実技試験（4）	演習実技試験	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
14	喀痰吸引・経管栄養の演習総まとめ（1）	演習	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく
15	喀痰吸引・経管栄養の演習総まとめ（2）	演習	テキストに付属のDVDにて手技を復習しておく

■受講上の注意

実習着・実習靴を毎回持参すること
自宅にて、テキストに付属のDVDを見て予習・復習をすること

■成績評価の方法

①実技試験　100%

■テキスト参考書など

医療的ケア　メヂカルフレンド社

■備考

日本赤十字救急法

講師：赤十字職員

単位数：1単位　　時間数：24時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

意識障害・呼吸停止・心停止・気道閉塞など直ちに手当が必要な傷病者に対して，救急隊員に引き継ぐまでの間，正しい観察と判断の下で迅速に救命の手当を行うために必要な知識と技術を広く市民に普及することを目的とする。いかなる状況下でも，人間のいのちと健康，尊厳を守ることを目的に講習をとおして救急法を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	赤十字救急法について理解できる 赤十字救急法とは・救急法を実践する際の心得	講義	
2	手当の基本について理解できる 観察の基本・体位の基本・傷病者への接し方・現場での留意点	講義	
3	一次救命処置（BLS)について理解できる 一次救命処置の手順・心肺蘇生・呼吸の見方・胸骨圧迫・気道確保	講義	
4	一次救命処置・心肺蘇生法・AEDの使用法・気道異物除去について理解できる	演習 実技評価 筆記試験	基礎講習学科評価
5	赤十字救急法救急員に求められる能力について理解できる 正しい観察と判断を行える能力・リーダーシップ	講義	
6	急病・けが・傷の手当・骨折の手当・搬送・救護について理解できる	講義	
7	傷の手当について理解できる 止血法・三角巾を使用した包帯法・固定法	演習	
8	骨折の手当について理解できる 前腕骨骨折・下腿骨折・膝関節骨折・アキレス腱断裂手当	演習	
9	搬送について理解できる	演習	
10	総合実技シミュレーション	演習	
11	まとめ・実技検定	実技試験	
12	まとめ・学科検定	筆記試験	

■受講上の注意

実技では習得するまで何度も繰り返し練習に取り組む。
学校ジャージを着用する。

■成績評価の方法

① 基礎講習実技評価及び基礎講習学科評価　100%

■テキスト参考書など

救急法基礎講習　日本赤十字社　救急法講習　日本赤十字社

■備考

レクリエーション援助技術

講師:閏野 陽一

単位数:4単位　時間数:60時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

レクリエーションの持つ社会的意義や福祉の現場で活用できるレクリエーションの様々な方法を学ぶことにより、対象者に対して、専門的なレクリエーション支援ができるようになる。なお知識や理解ばかりでなく実践的な技術も身に着ける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	・ＯＲ　・クラスづくりとレクの実際	講義・実技	
2	・レクリエーションの意義と支援のあり方・対象者の心の元気づくりの課題	講義	
3	・レク・インストラクターの役割・レク活動を通した心の元気づくり	講義	
4	・職場や地域に根差したレク活動	講義	
5	・対象者との信頼関係づくりとホスピタリティ	講義	
6	・レク支援における集団形成とまとまり・コミュニケーションワーク	実技	
7	・アイスブレーキングの意義と実際	講義	
8	・レク支援における安全管理の在り方と実際	講義	
9	・ホスピタリティ、アイスブレキング等にあふれたレク支援の実際	実技	支援略案を考える
10	・自主的,主体的にレク活動を楽しむ力を育てる。	講義	
11	・ハードルの設定の方法と展開法・自己効力感やフォローの理論	講義	
12	・アレンジの方法と考え方	講義・実技	
13	・CSSプロセスの原則と留意点	講義・実技	
14	・自主的、主体的に楽しむハードルの設定、アレンジの方法、CSSプロセスの総括	講義	
15	・前期のまとめと総括、 評価	実技・筆記試験	
16	・学級生を対象にしたレクリエーション支援案の実際	演習	
17	・前時に同じ	演習	
18	・実習先の方々を対象としたレクリエーション支援案作成(アセスメントから)	演習	
19	・レクリエーションと社会福祉とのかかわり	実技	
20	・高齢社会におけるレクリエーション活動の在り方	実技	
21	・福祉レクレクリエーションの在り方や展開や援助の方法	実技	

22	・屋外における軽スポーツの実際	実技	塩屋公園
23	・歌やシンギングゲームの実際	実技	
24	・屋内における軽スポーツの実際	実技	体育服持参
25	・福祉の現場で生かす折り紙の実際	実技	折り紙講師来校
26	・郷土(鹿児島)に伝わる昔の歌等	実技	
27	・簡単なレクリエーションダンスと民踊の実際	実技	
28	・福祉施設におけるレク支援案の作成（50分中の10分間を学級生を対象に）	実技試験	
29	・前時に同じ	演習	
30	・終講試験・まとめ	実技 筆記試験	

■受講上の注意

演習主体の授業になるので積極的に参加してほしい

■成績評価の方法

①終講試験　50%　②実技試験　40%　③課題　　10%

■テキスト参考書など

『レクリエーション支援の基礎』(日本レクリエーション協会)

■備考

レジュメ及び資料を綴じるためのファイルを準備すること

介護福祉学特講Ⅰ

講師：介護福祉科教員

単位数：2単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域の理解として、各科目を繰り返し復習・予習をする。また、学習をとおして介護福祉士に必要な知識や技術の習得をめざす。

■科目内容

■学習のねらい

コマ数
1～15　国家試験対策（終講試験含む）

3領域
「人間と社会」
「介護」
「こころとからだのしくみ」

授業は参考文献を使用しながら課題学習に沿って展開する。加えて定期的な模擬試験の総合的解説等による再復習を行い、国家試験合格に値する学力を身につける。

■方法

講義

■学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法
①終講試験（模擬試験）　100%

■テキスト参考書など
1年次に履修した教科書、配布資料
国家試験対策の参考書

■備考

介護福祉学特講Ⅱ

講師: 介護福祉科教員

単位数:4単位　時間数:60時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域の理解として、各科目の総復習をする。また、学習をとおして介護福祉士に必要な知識や技術の習得をめざす。

■科目内容

■学習のねらい

コマ数
1～30　国家試験対策（終講試験含む）

3領域
「人間と社会」
「介護」
「こころとからだのしくみ」

授業は参考文献を使用しながら課題学習に沿って展開する。1年次から2年次までに学習した事を総合的にとらえ、国家試験合格を目標とした総合学習に取り組む。

■方法

講義

■学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法
①終講試験（模擬試験）　100%

■テキスト参考書など
1～2年次に履修した教科書、配布資料
国家試験対策の参考書

■備考

医療総合演習

講師: 池田加奈子

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に経管栄養を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	胃ろうまたは腸ろうからの経管栄養の手順を理解し実施できる（1）	演習	テキストの動画を見ておく
2	胃ろうまたは腸ろうからの経管栄養の手順を理解し実施できる（2）	演習	テキストの動画を見ておく
3	経鼻経管栄養の手順を理解し実施できる（1）	演習	テキストの動画を見ておく
4	経鼻経管栄養の手順を理解し実施できる（2）	演習	テキストの動画を見ておく
5	胃ろうまたは腸ろうからの経管栄養の実技試験（1）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
6	胃ろうまたは腸ろうからの経管栄養の実技試験（2）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
7	胃ろうまたは腸ろうからの経管栄養の実技試験（3）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
8	胃ろうまたは腸ろうからの経管栄養の実技試験（4）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
9	経鼻経管栄養の実技試験（1）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
10	経鼻経管栄養の実技試験（2）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
11	経鼻経管栄養の実技試験（3）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
12	経鼻経管栄養の実技試験（4）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
13	経鼻経管栄養の実技試験（5）	演習実技試験	テキストの動画を見て復習しておく
14	経管栄養の演習総まとめ（1）	演習	テキストの動画を見て復習しておく
15	経管栄養の演習総まとめ（2）	演習	テキストの動画を見て復習しておく

■受講上の注意

実習着・実習靴を毎回持参すること。自宅にて、テキストの動画を見て予習・復習をすること。

■成績評価の方法

①実技試験　100%

■テキスト参考書など

医療的ケア 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考